

I. 平成 18 年度事業報告

1. 総会・表彰式

(1) 第 59 回通常総会

平成 18 年 3 月 28 日（火）13 時 40 分から日本大学理工学部船橋キャンパス・13 号館 1326 大教室 2 にて開催。次の事項について承認、議決した。

1) 平成 17 年度事業報告承認の件、2) 平成 17 年度収支決算および年度末貸借対照表ならびに財産目録承認の件、3) 平成 17 年度表彰者選定結果の報告。

社員 360 名のうち、266 名（内 48 名出席、委任状 218 名）が出席し、社員の過半数である定足数を満たした。

(2) 臨時総会

平成 19 年 2 月 26 日（月）13 時 30 分から本会 7 階ホールにて開催。次の事項について承認、議決した。

1) 平成 19 年度事業計画案承認の件、2) 平成 19 年度収支予算案承認の件、3) 平成 19 年度役員承認の件、4) 名誉会員推戴者承認の件。

社員 360 名のうち、283 名（内 41 名出席、委任状 242 名）が出席し、社員の過半数である定足数を満たした。

(3) 表彰式・名誉会員推戴式

平成 18 年 3 月 28 日（火）の第 59 回通常総会に引き続いて行なった。

【表彰式】

1) 第 58 回 日本化学会賞

上村 大輔 梅澤 喜夫 小林 速男 小松 紘一
巽 和行 増原 宏

2) 第 23 回 学術賞

今堀 博 大塩 寛紀 北森 武彦 笹井 宏明
佐々木 誠 関 隆広 寺前 紀夫 浜地 格
福村 裕史 松本 吉泰 元島 栖二

3) 第 55 回 進歩賞

大栗 博毅 木口 学 北村 充 庄司 満
林 克郎 藤田 晃司 松尾 豊 三井 正明

4) 第 54 回 化学技術賞

①常木 英昭 桐敷 賢 奥 智治 進藤 久和
森下 史朗

5) 第 11 回 技術進歩賞

①薮野 邦久 中村 史夫 瀧井 有樹
②永田 浩一

③宇都宮 賢 川上 公徳 押木 俊之

6) 第 30 回 化学教育賞

曾我部國久 細矢 治夫

7) 第 23 回 化学教育有功賞

小西 弘子 齋藤 幸一 笹村 泰昭 杉山 剛英
妻木 貴雄

8) 第 24 回 化学技術有功賞

西山 雅祥

9) 第 1 回 功労賞

豊田 二郎 野村祐次郎

【名誉会員推戴式】

茅 幸二 柴崎 正勝 御園生 誠 村井 眞二
Rolf Huisgen

2. 法定理事変更および登記手続

平成 18 年度理事として

藤嶋 昭（神奈川科学技術アカデミー）

楠本 正一（サントリー生有研） 池田 富樹（東工大資源研）

中江 清彦（住友化学(株)） 今成 真（三菱化学(株)）

渡辺 正（東大生研） 山本 嘉則（東北大院理）

大方 勝男（広島大院理） 岩澤 伸治（東工大院理工）

香月 昂（九大院理） 上村 大輔（名大院理）

菅原 義之（早大理工） 加納 航治（同志社大工）

田島 慶三（三井化学(株)） 鴻池 敏郎（塩野義製薬(株)）

谷口 功（熊本大工） 小松 満男（阪大院工）

橋本 和仁（東大先端研） 高垣 秀次（大日本インキ化学工業(株)）

原田 明（阪大院理） 西川 恵子（千葉大院自然科学）

府川伊三郎（旭化成(株)） 西村 淳（群馬大工）

山田 宗慶（東北大院工） 平尾 一之（京大院工）

宮浦 憲夫（北大院工）

太田 暉人（日本化学会）

の 27 氏が就任し、その手続きは平成 18 年 4 月 18 日に完了した。

3. 平成 19 年度役員候補者

平成 19 年度役員候補者は所定の手続きを経て臨時総会で下記の通り承認された。

会 長 藤嶋 昭（神奈川科学技術アカデミー）＊

副会長 岩澤 康裕（東大院理） 楠本 正一（サントリー生有研）＊

新海 征治（九大院工） 中江 清彦（住友化学(株)）＊

高橋 里美（(株)カネカ） 渡辺 正（東大生研）＊

理事 稲辺 保（北大院理） 香月 昂（九大院理）＊

伊与田正彦（首都大院理工） 菅原 義之（早大理工）＊

川俣 章（花王(株)） 田島 慶三（三井化学(株)）＊

神戸 宣明（阪大院工） 谷口 功（熊本大工）＊

河本 邦仁（名大院工） 橋本 和仁（東大先端研）＊

佐々木政子（東海大総合科学研） 原田 明（阪大院理）＊

長瀬 公一（東レ(株)） 府川伊三郎（旭化成(株)）＊

中村 聡（東工大院生命） 山田 宗慶（東北大院工）＊

増原 宏（阪大院工）

三吉 克彦（広島大院理）

吉田 潤一（京大院工）

常務理事 太田 暉人（日本化学会）＊

＊：平成 18 年度に選任された留任役員である。

4. 平成 18 年度表彰者

平成 18 年度表彰者は、所定の手続きを経て、下記のとおり決定した。

第 59 回 日本化学会賞

相原 惇一（静岡大理）

「環状π共役系の芳香族性の理論的解明」

青山 安宏（京大院工）

「分子集積の構造制御と機能発現」

大寫幸一郎（京大院工）

「有機金属反応剤とラジカル種を複合利用した高選択的有機合成反応の開発」

辰巳 敬（東工大資源研）

「新規ゼオライト・メソ多孔体物質の合成と触媒材料としての応用」

丸岡 啓二（京大院理）

「精密酸塩基触媒の設計と有機合成への応用」

山口 兆（阪大院理）

「スピン相関・電子相関の理論と化学結合論：化学反応論と分子設計への展開」

第 24 回 学術賞

猪股 勝彦（金沢大院自然科学）

「有機合成化学を基盤とする光受容色素蛋白質フィトクロムの構造と機能の解明」

岩澤 伸治（東工大院理工）

「アルキン類の求電子的活性化に基づく触媒的炭素骨格構築：0 価 6 族金属カルボニル錯体の活用」

魚住 泰広（分子研）

「シナジスティック機能を発現する遷移金属触媒の開発」

君塚 信夫（九大院工）

「新しいナノ分子組織系の設計と特性に関する研究」

俣 召民（理研）

「新しい構造をもつ有機希土類錯体の合成と新規物質変換触媒への展開」

小林 長夫（東北大院理）

「巨大芳香族化合物の分子構造と電子吸収、C D、M C D と電気化学の相関の解明」

齋藤 正男（東北大多元研）

「ヘムオキシゲナーゼによるヘム代謝の分子機構解明」

塩谷 光彦（東大院理）

「精密分子設計による金属錯体型超分子の構築と機能化」

清水 敏美（産総研）

「ナノチューブ状一次元構造体への分子組織化と機能開拓」

三澤 弘明（北大電子研）
「超高密度フォトン束による固体の光反応制御」
村田 道雄（阪大院理）
「生物活性天然有機化合物と分子複合体の構造解析」

第 56 回 進歩賞

井村 考平（分子研）
「近接場分光イメージングの新技术の開拓とナノ物質の局所励起と波動関数の研究」
大久保 敬（阪大院工・科学技術振興機構）
「長寿命の光電荷分離状態を有するドナー・アクセプター連結系分子の開発と応用」
佐藤 守俊（東大院理）
「細胞内の分子過程を可視化する遺伝子コード型蛍光プローブ」
田代健太郎（東大院工）
「フラーレンを操るパイ電子空間の分子設計」
羽村 季之（東工大院理工）
「シクロブテンを中心とする歪み化合物の合成、反応と構造化学に関する研究」

松永 茂樹（東大院薬）
「新規複核金属錯体の近接効果制御能を活用した高原子効率不斉触媒反応」
村橋 哲郎（阪大院工）
「一次元および二次元サンドイッチ型多核金属錯体の創製」
山田 真実（東農工大工）
「有機シェラー無機コア構造を有した新規複合ナノ粒子材料の合成と特異物性の解明」
吉沢 道人（東大院工）
「精密疎水空間の自己組織化構築と水中での特異反応・物性の創出」

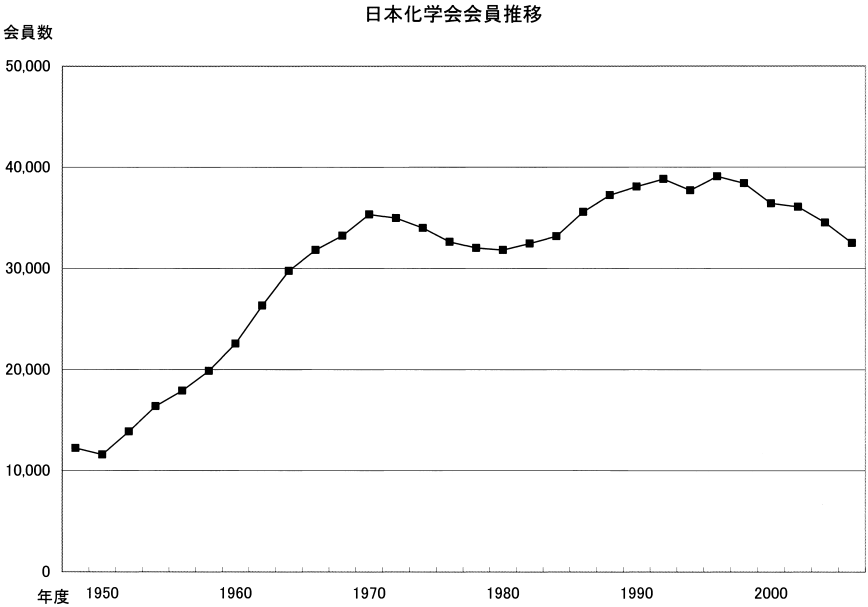
第 55 回 化学技術賞

真鍋 征一、鶴見 隆、中野 博夫、野田 壽昭、佐藤 哲男
（（株）シグマリサイクル技術研究所・東京農工大・（株）細川洋行・旭化成メディカル（株））
「ウイルス除去フィルターの開発と工業化」
岡崎 肇、畑中 重人、守田英太郎、沓岐 英、島田 孝司
（新日本石油（株））
「サルファーフリー自動車燃料製造技術の開発」

会員現況

会員種別	平成18年 2 月末	平 成 18 年 度 中								平成19年 2 月末	年度内 増 減
		入 会 内 訳			退 会 内 訳				変更 修正		
		新入会	復帰	入会計	退会	死亡	除籍	退会計			
個人正会員	25,093	529	26	555	1,775	94	1,544	3,413	1,909	24,144	-949
学生会員	5,116	2,543	7	2,550	465	1	65	531	-1,935	5,200	84
教育会員	1,993	95	0	95	119	2	36	157	22	1,953	-40
名誉会員	74	0	0	0	0	2	0	2	4	76	2
法人正会員	577	8	0	8	15	0	0	15	0	570	-7
公共会員	559	10	0	10	16	0	0	16	0	553	-6
賛助会員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	33,412	3,185	33	3,218	2,390	99	1,645	4,134	0	32,496	-916

年度	合計
1950	12,233
	11,585
	13,876
	16,388
1960	17,931
	19,901
	22,596
	26,354
1970	29,764
	31,806
	33,223
	35,329
1980	34,972
	33,999
	32,611
	32,018
1990	31,810
	32,456
	33,165
	35,572
2000	37,247
	38,080
	38,831
	37,722
	39,084
	38,419
	36,406
	36,062
	34,514
	32,496



瀬尾 健男、堅尾 正明、石野 勝、辻 純平、山本 純
 (住友化学(株))
 「プロピレンオキサイド新製法の開発と工業化」
 旭 良司、森川 健志、大脇 健史、青木 恒勇、鈴木 憲一
 ((株)豊田中央研究所)
 「可視光応答型光触媒の材料設計と開発」
 嶋崎 由治、矢野 齊、杉浦 秀人、神戸 英行 ((株)日本触媒)
 「N-ビニル-2-ピロリドン新規製造法の開発」

第12回 技術進歩賞

田中 祥徳、黒田 俊彦、平松 紳吾 (東レ(株))
 「革新的な血液前処理デバイスおよびそれを用いた超高感度タンパク質解析技術の開発」
 岩間 直、榎本 雅美
 (日本ポリプロ(株)・(株)三菱化学科学技術研究センター)
 「7員環縮環構造を有するメタロセン錯体を用いたプロピレン重合触媒の開発」

第31回 化学教育賞

市村禎二郎 (東工大院理工)
 「初等、中等ならびに高等化学教育の普及・振興への貢献」
 甲 國信 (東北大院理)
 「東北地区の化学教育活動に対する貢献」
 吉村忠与志 (福井工業高専)
 「コンピュータを活用した化学教育振興への貢献」

第24回 化学教育有功賞

歌川 晶子 (多摩大附属聖ヶ丘高)
 「化学教育の発展を目指したネットワークの構築と実践」
 佐藤 成哉 (愛知淑徳大)
 「化学教育の活性化と新教材開発への貢献」
 四ヶ浦 弘 (金沢高)
 「身近な物質や現象を活用した独創的化学教育の展開」
 守本 昭彦 (都立武蔵野北高)
 「化学的な視野を広げる実験教材の開発と普及」

第25回 化学技術有功賞

井村 立美 (名大工)
 「石英ガラス製機器の試作とガラス器具破損事故低減への取り組み」
 鈴井 光一 (分子研)
 「精密機械技術を駆使した革新的実験機器の設計・製作」
 福原 彊 (北大工)
 「無水HFを実験室で使用するための装置および器具の設計と製作」

第2回 功労賞

上原 陽一 (横浜安全工学研究所)
 「環境・安全関係の知識の普及と教育に対する貢献」
 小川桂一郎 (東大院総合文化)
 「論文誌電子化の達成」

5. 名誉会員候補者

名誉会員推戴候補者は、所定の手続きを経て臨時総会で下記の通り決定した。

田中 耕一 掘越 弘毅 又賀 昇

6. 平成18年度理事会・委員会開催回数

通常総会	1回	化学教育賞等選考委員会	1
臨時総会	1	研究交流部門	
役員会等		研究交流部門会議	0
理事会	5	学術研究活性化委員会	3
顧問会	1	ディビジョン運営委員会	2
相談役会	1	国際交流委員会	1
支部長・部会長会	2	第87春季年会(2007)実行委員会	3
運営会議関係		D B事業委員会	0
運営会議	6	男女共同参画推進委員会	4
将来構想委員会	4	化学関係学協会連合協議会	1
広報委員会	0	学術情報部門	
倫理委員会	5	学術情報部門会議	3
論説委員会	2	化工誌編集委員会(幹事会11回含む)	14
会務部門		欧文誌編集委員会(編集幹事会12回含む)	14
会務部門会議	2	速報誌編集委員会	3
会員委員会	8	産学交流部門	
財務委員会	4	産学交流委員会	4
職員人事委員会	4	環境・安全推進委員会	3
役員選考委員会	1	化学技術者教育委員会(幹事会5回含む)	7
学会賞選考委員会	2	化学教育協議会	
学術賞・進歩賞選考委員会	1	化教誌編集委員会	3
化学技術賞等選考委員会	1	役員会(幹事会3回含む)	5

7. 平成18年度理事会、運営会議、各部門の審議経過

(1) 理事会

平成18年度は、平成17年12月に実施した環太平洋国際会議の収益金の戻りがあり、化学振興事業基金を2000万円以上積み増すことができた。それを受けて平成19年度の予算では、基本は収支均衡としながらも、化学普及書の発行や、化学オリンピック紹介ビデオの作成に650万円の基金を取り崩すことを承認した。

懸案であったディビジョン制がスタートした。WEBシステムを立ち上げ、ディビジョン内の情報の交換を促すとともに、ディビジョン毎にその分野の将来像をまとめ、化学レポートとして政策提言などに利用する予定で作業を進めることとした。また、あわせて、ディビジョンから理事の専門分野枠の推薦や各賞の候補者の推薦ができるように制度を改正した。

国際交流関係では、今回の環太平洋国際化学会議の開催に向けた参加7カ国の基本契約を承認した。今回は2010年にこれまでと同様にホノルルで行う。共催団体に新たに中国化学会が加わり7カ国になった。また、イギリスの王立化学会からの申し入れで、第87春季年會中に、

日英でグリーンケミストリーに関する合同シンポジウムを開催することを承認し、具体的な検討を「環境化学・グリーンケミストリーディビジョン」に付託することを決めた。

欧文誌、速報誌関係では、電子版の利用が進んでいるのを受けて、価格体系を、冊子の購読契約から、電子版へのアクセスのライセンス契約に移行することを承認した。また、電子化に対応して別刷りのpdf化や、電子版の著作権の扱いを明確にした。

教育協議会が実施した小中高の教員の勤務実態のアンケートに基づいて、文部科学大臣に対して、「教員の質の確保に向けた提言」を行った。経産省が2005年から作成している技術戦略マップに学会としていくつかの分野についてより長期の展望をマップ化する依頼を受け、この作業を学術活性化委員会に付託し融合6分野で作業することを承認した。

国際化学オリンピックが2010年に日本で開催されることが正式に決定したことを受けて、関連する27団体に呼びかけて、「化学オリンピック日本委員会」を発足させ、自らもその一員となることを承認した。また、化学系の学協会の統合に向けた日本化学連合の立ち上げに際して、参加することを決定した。

(2) 運営会議

運営会議は、本会の重要事項をタイムリーに審議する機関として位置づけられており、役員選考方法の改訂、ディビジョンのあり方、賞や役員選考制度などの具体的な内容を討議し、理事会に提案した。

昨年理事会で継続審議となった化学士の資格制度については、ニーズの定量的な把握が困難であることから、理事会への提案を見送ることとした。これにより資格制度の検討は、当面行わない。

昨年策定した会員の行動規範に基づく審理規定に則り、具体的な案件について審理委員会を設け、その審理結果を理事会の承認を経て公表した。

1. 将来構想委員会

今年度の本委員会は、4回の委員会を開催し、平成17年度からの申送事項を中心に下記事項について検討した。

(1) 経済産業省アカデミアロードマップに関する受託調査

平成18年度の学術研究活性化委員会事業『第二次先端ウォッチング調査:融合領域の創成』の内容を経済産業省『技術戦略ロードマップ』に反映させることは重要であり、本会としても積極的に情報発信する必要があるとして理事会として受託が承認された。平成18年7月に発足したディビジョンの調査報告『化学レポート』(仮称)を『技術戦略マップ』に反映させることは時間的に無理があり、調査初年度は第二次先端ウォッチングの調査対象に予定した6分野を採り上げることにした。なお、平成18年12月に調査の中間報告会を開き、平成19年3月の第87春季年会において成果報告会(イブニングセッション)を開催する予定で、現在、調査報告書の作成作業が進行中である。

(2) 大学教育研究費の現状と課題について

法人化に伴う予算の変動と学内の研究費配分方式の変化、大型競争的研究資金の増加など近年の研究費の動向が大学研究室の経済状態に大きな変化をもたらし、研究費の減少傾向が著しいという声がある一方で、一部研究者に過度に資金が集中しすぎ、それが倫理上の問題を引き起こしかねないという批判もある。こうした現状を把握するため大学関係者より現状の説明を聴取した。法人化後3年目を迎えた現時点で、研究費を中心とした教育研究環境の変化を調査し、その結果に基づいて必要な提言を行うことにした。

(3) 政策提言機能の発揮とその具体的な推進方策の検討

関係者より具体的な事例をもとに話題提供いただき検討し、以下のことを決めた。

①平成18年7月より『日本化学会ディビジョン』制度がスタートし、化学関連各分野の研究動向、将来予測、今後推進すべき研究課題などを『化学レポート』(仮称)にまとめ、国の科学技術政策に化学専門家集団として提言する。

②日本学術会議化学委員会・分子科学研究所・日本化学会将来構想委員会が共同で開催している『教育研究基盤整備・学術研究体制』の検討結果を提言としてまとめ情報発信する。

③日本化学会として長期的な視点に立つ政策提言の発信を行うため、有識者で構成する『政策諮問会議』(仮称)を設置し、高踏的な立場からの議論を行う。

④日本学術振興会・科学技術振興機構・NEDOなどの化学系PD・POと懇談会の開催し、研究評価・研究費配分などの問題について意見交換する。

(4) 大学院博士課程学生・ポスドク研究者への支援策検討

平成18年3月、本委員会と産学交流委員会との共同企画で実施した『ポスドク問題』に関するシンポジウムの総括結果として、産・学の実践者コミュニティである日本化学会は、この問題を継続的に注視し、例えば春季年会で実施している就職相談会などの研究人材の雇用に関する事業を積極的に展開し、これら研究者への支援を行うこと、また、『野依フォーラム』において博士人材育成に関して、博士課程在学者への経済的支援強化とカリキュラムの充実を柱とする強力な施策により多くの優れた人材が博士課程に進み、世界に通用する優秀な博士人材を輩出する必要がある。そのための政府への要望、企業のとるべき施策、大学への要望などがまとめられた。これら事項の実現のため、本委員会傘下に小委員会を設置して具体的な検討を行うことを決めた。

(5) アジア戦略、特に中国・インド・韓国等との学術交流の検討

平成17年度重点活動の一環として藤嶋会長より提案された上記については、学術研究活性化委員会で平成19年3月開催の第87春季年会において4分野のディビジョンでアジア地域の若手研究者12名を招聘し、我が国研究者との国際シンポジウムを開催する予定で目下準備を進めている。

(6) 理科離れ対策

①理科教員の養成に関わる諸問題について

教員養成の仕組みに関わる事項、現職教員の資質向上に関わる事項について関係者より説明を受けた。工学部出身者の高校理科教員への道の途絶

については、化学教育協議会で検討中であること、また、教員のゆとりの確保の問題については、同協議会での検討結果をまとめた提言を理事会の審議・承認を得て文部科学省に提言書が提出された。

②化学普及書“ファール昆虫記”(化学版)の企画・発行

藤嶋会長の提案に基づき、2年以内の刊行を目標に掲げ下記メンバーで編集企画の検討を継続中である。

○委員長：井上 晴夫(首都大東京)

○委員：藤嶋 昭(神奈川科学技術アカデミー)、市村禎二郎(東工大大学院理工)、桐村光太郎(早大理工)、中村 聡(東工大大学院理工)、斎藤 幸一(開成学園)、吉兼 正能(ダイセル化学工業)

○構成内容：

第一部：化学展解説書・おもしろ化学史のリメイク版普及書(対象：中・高校生、学生・主婦・一般市民ほか)

第二部：童話をベースとする児童書の企画(対象：小学生・主婦)

第三部：化学のはたらきシリーズ(全8巻：電化製品、自動車、住まい、衣料、薬、医療、食品など。東京書籍発行)(対象：高校生、学生・主婦・一般市民ほか)。

(7) 大学学部・大学院化学系学生数および化学系学生の就職動向の調査

近年、大学学部学科や大学院専攻の名称が変更され、化学が関係する学科等が分かりにくくなっているが、本会として実態を把握しておく必要がある。また、最近の化学系学生の就職動向に関する基礎的な資料がないことから、本委員会内にWGを設置し、今後これらのデータを調査・収集することにした。

(8) 教育研究基盤整備および学術研究体制に関する研究会への協力

平成13年～18年、日本学術会議化学研究連絡委員会(現在、化学委員会)、分子科学研究所、日本化学会将来構想委員会は共同で標記研究会を5回開催、わが国の教育研究基盤および学術研究体制等に関して、現状の分析と集中討議を行ってきた。この討論のまとめと報告書の作成に本会は全面的に協力してきており、平成18年度に開催した研究会の討論のまとめは現在作業中である。

2. 広報委員会

本年度の広報活動は、下記事業を中心に行った。

(1) 第86春季年会(2006)ハイライト講演の広報

広報委員会内に第86春季年会実行委員会関係者らによるワーキンググループを組織し、春季年会プログラム小委員会から選抜された116件の中から、一般研究発表15件のハイライト講演を選抜し、発表者に説明用資料の作成を依頼、ハイライト集を作成、平成18年3月16日(木)、本会会議室で報道関係者20の出席を得て記者会見を行った。

(2) 第87春季年会(2007)ハイライト講演の広報

広報委員会内に第87春季年会実行委員会関係者らによるワーキンググループを組織し、春季年会プログラム小委員会から選抜された115件の中から、一般研究発表15件のハイライト講演を選抜し、発表者に説明用資料の作成を依頼、ハイライト集を作成、平成19年3月14日(水)、大阪科学技術センター会議室で報道関係者13名の出席を得て記者会見を行った。

(3) 化学イノベーションシンポジウム：明日を拓く化学のとびら(第4回)

平成16年1月より本部事業として開始された標記シンポジウムの第4回目は本会九州支部・関連学協会等の共催のもと、平成18年度科研費公促促進費の補助をうけ、下記により開催し、約280名を超える参加者を得て盛会裏に開催した。

○日時：平成18年11月12日(日)10時～17時

○会場：九州大学医学部百年講堂大ホール／中ホール

○講演

1. フォトクロミック分子材料の新機能(九大理工) 入江正浩
2. 業用材料に入ってきたナノテク材料：フラーレンとその最新動向(フロンティアカーボン) 有川峯幸
3. 近未来のエネルギー利用に向けて：水と酸素/水素の循環系構築(九大先端研) 成田吉徳
4. 環境調和型光触媒技術を応用した製品開発(東陶機器) 佐伯義光
5. TFT液晶材料の展望(チッソ) 後藤泰行
6. 細胞情報応答型材料の開発と創薬、医療への応用(九大理工) 片山佳樹
7. バイオコンビナトリアルケミストリー：難化学合成物質の包括的生産に向けて(九大院農) 割石博之
8. 水素科学の基礎と応用：固体プロトニクス(九大院理) 北川 宏
9. 化学と社会を考える(九大総長) 梶山千里
10. 忍び寄る白い粉：覚せい剤とその仲間－毛髪が語る乱用の軌跡(長崎大医歯薬総研) 中島憲一郎

11. 自然にやさしい化学材料（九工大生命体工研）白井義人
12. バイオ燃料電池への挑戦とその未来（熊本大工）谷口 功

（4）HP 管理委員会

本年度は、会議を 1 回開催したほか、常時メール会議を開催した。

1. ホームページの TOP 画面、各階層におけるデザイン等について、より効果的な活動ができるように検討並びに修正を行い、また、2. HP を利用した年会の参加申込、プログラム公開等を円滑に行うためのサポートを行った。

3. 倫理委員会

平成 17 年度 3 月より発足した標記委員会〔委員長 井上祥平（東京理科大学）〕は今年度 5 回の委員会を開催し、下記事項の検討を行ったほか、科学者・技術者の倫理に関するシンポジウムを開催した。

（1）第一号および第二号案件

申立てのあった上記二つの案件について審理委員会を設置し、調査・審理を行った。第一号案件については、審理委員会の最終的な審理結果を受け、本会としての最終的な処分内容を会長あてに倫理委員会として答申し、理事会の承認を得て会誌および本会 HP に処分内容を公開した。なお、第二号案件については現在、審理委員会で審理を継続している。

（2）会員の不正行為に関する調査及び審理に関する規則の改正案の検討

第一号および第二号案件の審理の過程において、現行細則に不備があることが分かり、細則の改正案を審議し、理事会に提出し承認された。

（3）『日本化学会会員行動規範』及び『行動の指針』の追加項目の検討

『行動の指針』に追加すべき項目として決定した『知的財産』『教育者としての倫理』の原案を審議したほか、『法令遵守』『研究費の適切な使用』『情報に関する倫理』についても追加することにし、現在、原案を作成中。

（4）シンポジウム『科学者・技術者の倫理と社会的責任を考える（2）』

第 86 春季年会会期中、関連学協会の共催、日本学術会議の後援で下記により開催した。出席者約 50 名。

○日時：平成 18 年 3 月 29 日（水）13：00～17：00

○会場：日本大学理工学部船橋キャンパス

○講演：

1. 日本化学会倫理委員会の活動（倫理委員会委員長）井上祥平
2. 科学者の倫理・行動規範について（経済産業省製造産業局）獅山有邦
3. 生命科学と社会：倫理から科学コミュニケーションまで（京大人文科学）加藤和人
4. 利益相反：ガバナンスとアカウンタビリティ（レックスウエル法律特許事務所／弁護士・弁理士）平井昭光

パネル討論

なお、第 87 春季年会（2007）の会期中、3 回目シンポジウムを下記により開催することにし企画案を検討・作成した。

シンポジウム『科学者・技術者の倫理と社会的責任を考える（3）』

○日時：平成 19 年 3 月 25 日（日）13：00～17：00

○会場：関西大学千里山キャンパス

○講演：

1. 日本化学会倫理委員会の活動（倫理委員会委員長）井上祥平
 2. 社会のための科学：研究者倫理の確立を（科学技術振興機構）有本建男
 3. 知的財産に関わる倫理について（知的財産協会）宗定 勇
 4. 倫理教育：技術者の倫理について（立命館大情報理工）中村取三
- パネル討論

4. 論説委員会

一般社会の化学に関する問題について、専門家集団として日本化学会が積極的に発言するべきであるとの観点から論説委員会が設置されている。

18 年度は、論説委員 13 名とテーマによってその都度ご委嘱するゲスト論説委員が、化学が関連する時事テーマを随時とりあげ、それに対する化学者としての良識的な見解を毎号の「化学と工業」誌に順次執筆して「論説」を掲載し、また、日本化学会ホームページにも掲載して会員のみでなく社会に向けて発信を行った。読者からの意見が多く寄せられた論説については、代表的な読者の意見とそれに対する執筆者の意見を掲載した。

（1）論説の発表に際しての検討

論説の掲載に当たって、日本化学会の責任を明確にするために検討を行い、論説の掲載に際しては、「ここに載せた論説は、日本化学会の論説委員の執筆によるもので、文責は、基本的には執筆者にあります。日本化学会では、この内容が当会にとって重要な意見と認め掲載するものです。」と記載することにした。

（2）論説テーマ

18 年度は以下のテーマにて掲載を行った。

論説 執筆担当（敬称略）・テーマ一覧（刊行予定を含む）

化学と工業 Vol. 59（2006 年）

3 月号 山野井 産業界からの大学（院）教育への要望と期待

4 月号 中西（ゲスト） 工業生産ナノ材料のリスク問題

5 月号 今成 化学会会員倫理

6 月号 細矢 化学の復権と後継者の育成

7 月号 渡辺 急所の数字

8 月号 澤本 学会と大学の「国際化」

9 月号 安井 「水からの伝言」と科学立国

10 月号 山辺 研究成果の社会への還元—産業化をめざす研究論—

11 月号 元村 「分らない」は悪くない

12 月号 野依（ゲスト） 明日の社会のために大学院教育の抜本的改革を

Vol. 60（2007 年）

1 月号 御園生 将来の化学技術を考えるための 5 つの基準

2 月号 山野井 生産技術と「匠の技」

3 月号 村井（ゲスト） 「元素戦略」の推進を

4 月号 相澤 今、なぜイノベーションなのか

（3）論説に対する会員からの意見の掲載

化学に関する問題に対する会員および一般社会の理解を求め、適切な共通認識に至ることをめざして、掲載した論説に対する読者からの意見、感想の募集を積極的に行った。特に読者の関心が高く、多くのご意見が寄せられた論説については、代表的な読者の意見とそれに対する論説執筆からの意見を「化学と工業」誌と日本化学会ホームページに掲載した。

Vol. 59（2006）掲載

1. 「産業界からの大学（院）教育への要望と期待」（3 月号掲載）への読者からの意見を 6 月号に掲載。

2. 「「水からの伝言」と科学立国」（9 月号掲載）への読者からの意見を 12 月号に掲載。

（3）会務部門

本年度の会務部門会議は 2 回開催し、下記事項について審議した。傘下の「会員委員会」「職員人事委員会」「役員選考委員会」「各賞選考委員会」の本年度の活動状況を以下にまとめた。

1. 会務部門会議

平成 18 年度の会務部門は主に、①平成 17 年度の各賞選考委員会より検討を申し送られた事項、②役員選考方法とくに理事の専門分野枠の候補者推薦方法、③日本化学会プライバシーポリシー案、などについて集中的に議論し、運営会議・理事会への内規改正案・答申案をまとめた。また、平成 20～21 年度会長就任予定者の会員直接選挙に係わる業務を行った。

①平成 17 年度各賞選考委員会からの申送事項ならびに平成 18 年度の選考方針

選考委員と候補者との利益相反に関する規定の明文化、学会賞・学術賞の推薦書の記載方法、化学教育賞・化学教育有功賞候補者の業績の調査方法のほか、ディビジョンからの各賞受賞候補者の推薦の方針について規程・内規改定案を審議・作成し理事会に提案し、承認された。

②平成 19 年度理事の専門分野枠選出候補者の推薦

平成 18 年 7 月「日本化学会ディビジョン」制度が正式発足したことから、平成 19 年度理事の専門分野枠選出候補者はディビジョンに推薦を依頼する方式をとることを運営会議・理事会に関連規程・内規改定案とあわせて提案し承認された。

③日本化学会プライバシーポリシーの制定

平成 17 年 4 月「個人情報保護法」が施行され、本会は学術研究の用に供する目的で個人情報を取り扱う場合に限り「個人情報保護法」の適用を受けないが、安全管理、苦情処理その他の個人情報の適正な取り扱いを確保するために必要な措置を講じ、当該措置内容を公表する「努力義務」が課せられており、文科省より「個人情報保護に関する考え方の方針に関する宣言」（プライバシーポリシー）を作成し公表するよう指導されている。このためプライバシーポリシー（案）を審議・作成し運営会議・理事会に提案し承認された。

④平成 20～21 年度会長就任予定者の会員直接選挙に係わる事項

平成 17 年 3 月、本会が化学分野のリーディングソサエティーとして機能するための新しい選考制度として、会員による会長の直接選挙、会長任期 2 年・次期会長制度の廃止・筆頭副会長制、任期 3 回に 1 回は産業界所属の個人正会員から選出することが平成 17 年度理事会で正式決定された。これを受け本会としての初となる会員直接選挙が実施され平成 18～19 年度会長として藤嶋現会長が選出された。平成 20～21 年度会長就任予定者の会員直接選挙に関わる業務について、会務部門として書類・日程等の確認を行い、実施要項の一部改正案を審議・作成し、運営会議・理事会に提案し承認された。選挙投票は現在 3 月 10 日締切りで実施されてお

り、結果は3月13日に判明する。

2. 会員委員会

平成18年度より新体制となり、ほぼ毎月一度のペースで委員会を開催した。本会員数の減少傾向が続くなか、改めて会員の維持・増強につながる課題の洗い出し・調査・対策を検討した。また、時期を得た対策を実施するためには、本委員会のみならず、年会実行委員会、化工誌編集委員会、産学交流委員会等の協力が必要であり、対策実施にむけた検討を要請した。以下に委員会活動の概要をまとめた。

【実施事項】

- 化学と工業誌の会告欄の記事事項の徹底（会員の特典）・・本会員が本会告欄に掲載されている他学協会等の講演会・講習会・研究発表会に参加する場合、原則として主催者の会員と同等の条件（参加費）で参加できることの記載の徹底を要請し実施された。
- 化学と工業誌に個人正会員・学生の新入会者名の掲載（会員意識）・・一時、中断されていた化学と工業誌への新入会者名の掲載を要請し再開した。
- 化学と工業誌の産業界記事の増頁・・平成18年1月より化学と工業誌の大幅な誌面刷新がなされたが産業界記事の割合が少なくなった感があり、産業界記事の増頁を関係委員会へ要請し実施された。
- 春季年会の学生体験参加（学生会員への勧誘）・・年会にて発表を行わない学部学生や高専生を対象に廉価にて年会参加の機会を与えるため、年会実行委員会に検討を要請し第87春季年会（関西大学）より「入会準備学部学生」として2000円で参加できることとなった。また、学生会員の懇親会参加を高めるため懇親会費も減額された。
- 「入会のすすめ」の改訂作業・・2004年11月作製の「入会のすすめ」の改訂作業にあたり、個々の対象にあった「入会のすすめ」を作ることとし、学生向けに2種類の「入会のすすめ」を作製した。第87春季年会での入会準備学部学生での参加者から配布を予定している。また、大学初年度の学生や高専生に本会を知ってもらうことを主旨としたパンフレットを編集集中である。
- 会員ドア内の旅行などの優待の情報更新（会員の特典）・・会員専用の情報ページであるCSI MyPage内の会員ドアでの旅行・宿泊・レンタカーの会員優待割引の情報更新をおこなった。

【検討事項報告】

- 職域会員代表活動費・・平成18年度は7支部に合計229万6千円の同活動費を支部費とは別途に本部より支給している。次年度より支部長に職域会員代表のとりまとめ役をお願いし、具体的な事業計画・報告をともなった活動を図る。なお、職域会員代表の名称にあっては、「代表正会員」と改称する。次年度は代表正会員による新会員入会に結びつく紹介にあってはインセンティブの実施を検討する。また、代表正会員以外の会員による個人正会員などの紹介（入会者数の蓄積）を実施にむけ対応する。
- 正会員紹介や学生会員から正会員への継続紹介に係る支部への還元の見直し・・会誌封入フィルムにも印字されていた「支部還付金制度」は平成19年2月をもって終了する。
- 卒業生への記念品の廃止・・平成18年3月卒業生を対象とした会員継続を勧める文書と同封した記念品（元素周期表）は次年度廃止する。
- 通称シニア会員（個人正会員の割引制度：満60歳以上で有給の職に就いていない個人正会員）制度の周知：退職時期に退会される方があり、同制度の周知を図る。

【その他報告】

- 職域会員代表との意見交換会・・平成18年度より212名の職域会員代表の委嘱（任期：3年）がなされ、第86春季年会（日本大学）会場にて藤嶋会長のご出席のもと本会状況の説明や意見交換が実施され約60名が参加した。
- 事務局総務部会員Gにて会費納入・会員継続のお願い等の実施・・10月末の次年度会費納入のお願い後、継続会員および除籍対象者へ各2回の郵送による会費納入・会員継続を実施するとともに、個別に対象者へメールによる連絡を実施した。また、会員の転居にともなう会誌返送（異動届の未提出による）に対処し、住所不明による会誌送付停止を半減させた。

【調査事項】

本年度の委員会審議にあたり、下記の調査を実施した。

- 個人正会員（企業）の入会動機調査
- 個人正会員（企業）の退会理由調査
- 法人正会員内の個人正会員の会員経歴年数の分布調査
- 本会以外の有力関係学協会に法人会員である企業の調査
- 法人正会員の入会・退会・増口・減口数経緯の調査
- 他学協会を含めた法人会員の特典調査
- 法人正会員企業内の個人正会員への会費補助等の調査

- 第86春季年会での法人企業参加者の「会員・非会員」の調査

3. 財務委員会

6月の文部科学省実地検査で基本財産に価格が変動する株式が含まれていることを指摘され、指導により理事会の承認を得、その他固定資産に変更した。同様に会計処理規定も作成制定した。19年度予算は新会計基準に移行するため財務諸表が変わり、収支予算案も新形式で作成した。19年度は化学普及書刊行事業、化学アーカイブズ事業などの経費を化学振興事業基金を取崩して充当し949,765千円規模の均衡予算となった。

4. 職員人事委員会

平成18年度は委員会を4回開催し、①職員の人事異動と昇給者の決定、②職員の再雇用制度に関わる就業規則および関連規則改定案、③平成18年4月からの就業規則・給与規則改定案、④職員のコンプライアンス、⑤常務理事の再契約、⑥事務局長の退職再雇用、⑦参与の退職に伴う後任人事などについて審議し、運営会議・理事会に提案し承認された。また、②③について職員・嘱託事務員に対する説明会を開催した。

5. 役員選考委員会

今年度の役員選考委員会は1回開催し、平成19年度の役員を選考した。

6. 各賞選考委員会

- ①学会賞選考委員会：委員会を2回開催し、平成18年度学会賞受賞者6件を選考した。
- ②学術賞・進歩賞選考委員会：委員会を1回開催し、平成18年度学術賞受賞者11件、進歩賞受賞者9件を選考した。
- ③化学技術賞等選考委員会：委員会を1回開催し、平成18年度化学技術賞受賞者5件、技術進歩賞2件、化学技術有功賞3件を選考した。
- ④化学教育賞等選考委員会：委員会を1回開催し、平成18年度化学教育賞受賞者3件、化学教育有功賞4件を選考した。

（4）研究交流部門

部門会議は開催したが、春季年会の今後の開催方針について早急に検討するため、WGを設置して提言をまとめ運営会議・理事会に答申した。今年度の研究交流部門傘下の各委員会の活動概況を記した。

1. 学術研究活性化委員会〔委員長：岩澤康裕（東大院理）〕

平成18年度会議を3回開催し、以下を検討した。

- ①複数の化学関連領域にインパクトがあり、新領域への展開が期待される『第二次先端ウォッチング調査』の提案書の審議を行った。
- ②経済産業省の技術戦略ロードマップに係わる事業として『アカデミーロードマップ』の作成を日本総合研究所から受託し『第二次先端ウォッチング調査』の対象分野である6分野（バイオ計測とナノ・マイクロ化学分析の新展開、均一・不均一系触媒の融合：協奏機能、生命分子科学の進展、ケミカルバイオロジー：化学から生物へ、次世代型環境応答性金属錯体、分子性結晶の化学と電子デバイスへの応用）について調査報告書を作成中。その成果発表を第87春季年会会期中にイブニングセッションを行う予定。
- ③春季年会の活性化を目的としてアジア地域の若手研究者を招聘して国際シンポジウムを4ディビジョン（光化学、錯体・有機金属、天然物化学・生命科学、生体機能関連化学・バイオテクノロジー）で企画し、第87春季年会会期中に開催する予定。
- ④イギリス王立化学会より本会に対し協力要請のあったRoyal Society of Chemistry, PCCP (Physical Chemistry Chemical Physics) and Faraday Discussionの"PCCP Prize"の受賞者選考については、ディビジョンおよび春季年会の活性化に繋がるものと期待されることから理事会で承認された。この決定をうけ、本委員会で候補者の推薦方法・受賞資格・受賞対象について検討の結果、ディビジョンに候補者の推薦を依頼することを決め、実行に移した。
- ⑤大学等の最先端基礎研究のイノベーション潜在シーズを産業界の視点で発掘し、新たなイノベーション創出の可能性を探ることを目的に、本会とJSTが共同で『産学出会いの場』を設けることについて審議し、第87春季年会の場を利用して開催することにした。

2. ディビジョン運営委員会〔委員長：井上晴夫（首都大東京都市環境）〕

本年度は2回会議を開催。平成18年8月現在、約13,000名の会員が21のディビジョンに登録された。

- ①第86春季年会会期中に主査の初会合を開催し、ディビジョンの運営・事業活動および主査の任務を説明した。また、ディビジョン専用ホームページのデモストレーションを行い、今後の作業計画とタイムスケジュールを決めた。
- ②各ディビジョンは、当該分野の現状（研究最前線・課題）と将来予測・

今後推進すべき課題などを200～400ページにまとめる。その要約版（日本語版・英語版、約20～300ページ）を集めて『化学レポート』（仮称）にまとめる、さらに提言書（約10～20ページ）を作成し、国の科学技術政策等への提言を行う。ディビジョン目次案は平成18年12月末日、第一次原稿は平成19年3月末日、政策提言書の完成は平成19年7月末を予定し、作業を現在進めている。

- ③各ディビジョンのHPがほぼ完成し、webを利用した情報発信が可能となった。各ディビジョンのコンテンツを今後充実させる予定。

3. 春季年会実行委員会

- ①第86春季年会（2006）〔実行委員長：池田富樹（東工大資源研）〕
平成18年3月27日（月）～30日（木）、日本大学理工学部船橋キャンパスで開催した。一般研究発表4,230件、ポスター発表1,377件、依頼講演169件、特別講演77件、受賞講演・特別企画講演131件など総講演件数5,984件。参加登録者8,660名。本年会においても、前回同様『Advanced Technology Program』（ATP）を企画し、「デジタル社会を支える材料化学」を主題に6つのセッションが企画され、394件の研究発表が行われた。

- ②第87春季年会（2007）〔実行委員長：石井康敬（関西大工）〕
平成19年3月25日（日）～28日（水）、関西大学千里山キャンパスで開催予定であり、25日～26日にATPが実施される。今回は、従来の材料化学に加え、新たにバイオ関係の2つのセッション「グリーンバイオ」「フロンティア・バイオ」が実施される。一般研究発表4,206件、ポスター発表1,432件、依頼講演179件、特別講演128件、受賞講演・特別企画講演131件など総講演件数6,076件。参加登録者は未定。

- ③春季年会の今後の開催方針について
ATPの導入により春季年会で必要な講演会場数が増えており、関東地域での会場候補が不足、特定校に開催が集中して開催校への負担増が問題化していることを受け、平成18年度にWGを設け検討した。その結果、現時点では、①学生の研究発表を全てポスター発表とすることについては教育的な面から問題であり、現状どおりとする。②現行の4日間の会期を5日間にした場合、約30会場分を減らすことが可能であることがわかり、開催可能な会場候補が増えることから、会場校の教室数に応じて会期を4日間または5日間にする。③各部門の会期は原則最長3日間とする。④会期の変更は平成20年3月開催の第88春季年会から実施する、などの結論を得た。

4. 部会・研究会

部会：コロイドおよび界面化学、情報化学、生体機能関連化学、バイオテクノロジー、有機結晶の5部会において、例年どおり講習会、シンポジウム、ニュースレター、電子ジャーナル（情報化学部会）の発行など順

調に事業を推進している（詳細は17ページ参照）。

研究会：本年度までに非線型反応と協同現象、フラウン・ナノチューブ、基礎錯体工学、酸性雨、量子有機化学、ソフト溶液プロセス、高精度分子設計、理論化学、液晶化学、生命化学、ヨウ素利用、化学電池材料、グリーンケミストリー、メスパワー分光、糖鎖化学、分子情報ダイナミックスの16研究会が設置されており、それぞれの研究会でシンポジウムの開催やニュースレターの発行などの活動が行われている。

5. 国際交流委員会〔委員長：山本 嘉則（東北大院理）〕

今年度は1回（4月19日）委員会を開催した。

- ①アジア化学会連合（FACS: Federation of Asian Chemical Societies）

－CSJ代表伊藤 真人

(1) FACS EXCO（幹部会）、特別シンポジウムの開催

FACS要請により、第86春季年会会期中にFACS EXCO 会議のほか、FACS 特別シンポジウム－Advancing Chemistry in Asia and Oceania－を開催、また同日夕刻にはアジア留学生等の懇談会を開催した。次回のアジア化学会議（I2ACC）はマレーシアのクアラルンプールにおいて2007年8月23～25日に開催が予定。これを機にホスト国が、韓国からマレーシアに委譲されることになっている。

- ②IUPAC 関係

－IUPAC 賛助会員会議主査：石谷 炯（神奈川科学技術アカデミー）

11月6日に委員会1回を開催。賛助会員（企業）の出席のもと、今後のIUPAC 活動予定等を報告した他、学術会議の化学委員会や本会の協力方針等について話し合った。なお、第44回IUPAC 総会が2007年8月4-12、イタリアのトリノで開催される。

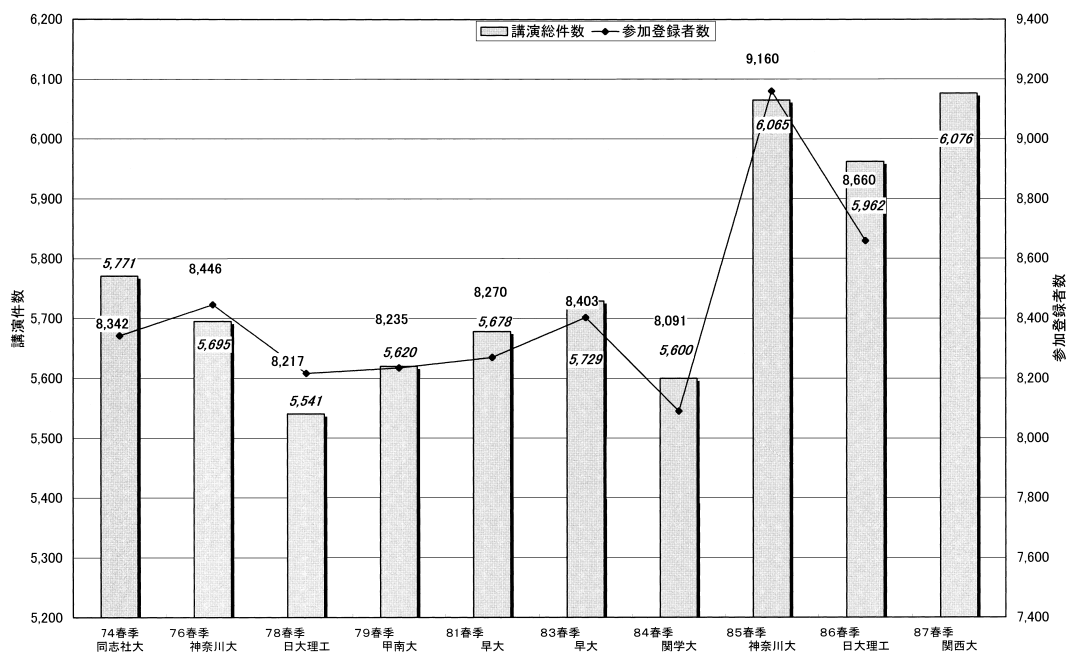
- ③2010 環太平洋国際化学会議

（PACIFICHEM 2010: 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies）〔主催：日・米・豪・ニュージーランド・韓・中〕
－国際組織委員会副委員長 巽 和行（名大）、国内実行委員長 澤本光男（京大）2006年12月13日～15日にハワイのカウアイ島で、日、米、豪、ニュージーランド、韓国、中国の委員で構成される国際組織委員会（第1回）が開催され、2010 環太平洋国際化学会議（PACIFICHEM 2010）をハワイで開催することを決定〔2010年12月10日～15日〕し、調印式が行われた。今回のホスト国はカナダで、またホスト国の一つに今回から中国が加わり、7カ国主催の国際会議となった。上記委員会では、13の分野から成るプログラムを決定した。これに従い、日本の国内実行委員会を編成、第1回国際実行委員会を開催する。なお、第2回国際組織委員会は2008年春に日本で開催が予定されている。

- ④ナカニシシンポジウム（Nakanishi Symposium）

－運営委員長 山村 庄亮（慶応大名誉）、シンポジウム実行委員長

春季年会講演件数／参加登録者数



・選考委員長 橘 和夫（東大院理）
2006 年度受賞者は、本会で選考の結果、安元 健 氏（JST 沖縄県地域結集型共同研究事業）を選出。3 月の第 86 春季年会で特別企画としてナカニシンポジウムを開催し、授賞式と受賞講演が行われた。

2007 年度は、Prof. Hung-wen Liu（テキサス大）の受賞が決定し、3 月の ACS の年会で表彰される。

運営委員会で今後の運営について討議の結果、シンポジウム運営は、「天然物化学・生命化学」ディビジョンが統括担当することになった。

⑤日英 GSC シンポジウム

ー日英 GSC シンポジウム WG 委員長 金田 清臣（阪大基礎工）ー
イギリス王立化学会の提案を受け、第 87 春季年会において、グリーンサステイナブルケミストリー（GSC）をテーマとして、シンポジウムを開催することとし、準備を進めた。イギリス王立化学会からは、会長 Professor James Feast、常務理事 Dr. Richard Pike を含め、16 名が来日し、日英計 26 名の研究者が 3 月 27 日午後のシンポジウムで発表する。

また、同夕刻には、上記に加え、アジア国際シンポジウムのメンバー等も加わり、懇親会・表彰式を開催する。

⑥主催国際会議

本会主催の国際会議として今年度下記 2 件が開催された。

①第 21 回 IUPAC 光化学国際シンポジウム

2006 年 4 月 2 日～7 日、京都テレサ

組織委員長 入江 正浩

②第 25 回天然物化学国際会議・第 5 回生物多様性国際会議（学術会議共同主催）

2006 年 7 月 23 日～28 日、京都国際会館

組織委員長 上村 大輔

また、2007 年には下記 3 件が予定されている。

③第 12 回新芳香族化学国際会議（学術会議共同主催）

2007 年 7 月 22 日～27 日、淡路夢舞台国際会議場

組織委員長 戸部 義人

④第 14 回有機合成指向有機金属化学国際会議（学術会議共同主催）

2007 年 8 月 2 日～6 日、なら 100 年会館

組織委員長 大島 幸一郎

⑤メタロミクス国際シンポジウム 2007

2007 年 11 月 28 日～12 月 1 日、名古屋国際会議場

組織委員長 原口 紘宏

6. DB 事業委員会〔委員長：井上晴夫（首都大学東京都市環境）〕

インターネットの飛躍的な普及により、本会会員のもつ膨大な学術情報やその他情報を整理・活用することが可能となったことから、平成 12 年より本会 HP で下記の情報提供サービス事業を実施していたが、平成 19 年度からはディビジョン・マイページと研究者 DB とを連携させることになり、事業は継続させるが、委員会は平成 18 年度をもって廃止となった。

①法人正会員企業の HP とのリンク：学生の就職活動支援を主目的に本会法人正会員の HP と本会 HP とをリンクさせた。

②研究者 DB: 研究者の人的な情報資源を最大限に活用し、わが国の化学研究のレベルを飛躍的に高めることを目的に、大学等に所属する正会員および公的機関に所属する正会員約 10,000 名が対象。本会に蓄積された研究者個々の会員情報および過去の春季年会における研究発表内容のほか、研究業績、専門分野等に関する情報が DB 化。対象会員すべてにパスワードを知らせ、本会 HP 上の情報を修正・追加しアップロードする方法を採用。

③ラボ用製品ガイド: 化学研究に不可欠な実験装置、計測機器、試薬等に関する企業の新製品情報を DB 化。

7. 化学関係学協会連合協議会（化学系 31 学協会で組織）

平成 19 年 3 月に全体会合の開催を予定している。なお、本協議会内に「化学技術者教育部会」（委員長：西郷和彦 氏（東大院新領域））を設置し、化学分野の認定制度については化学学協連が共同して対応している。本年度も日本化学会が幹事を担当し、本格審査・中間審査の試行を実施した。

8. 平成 19 年度科研費審査委員候補者の情報提供

平成 19 年度標記候補者の推薦について関係学協会で相談した結果、日本学術振興会の方針が平成 18 年度から変更となり、化学系が共同・調整して情報提供する必要性が認められないので、学協会が個別に候補者の推薦を行うことにした。

9. 男女共同参画推進委員会〔委員長：相馬 芳枝（産総研）〕

委員会を 4 回開催。7 つの WG を立ち上げ活動の充実を図った。

第 6 回シンポジウム “子育てしながら化学する”ー若手研究者・大学

院生を対象にーを 86 春季年会期間中に開催した。シンポジウムは基調講演 3 件と座談会からなり、会場に入りきれないほどの盛況で熱い意見交換はその後のミキサー終了まで続いた。

自然化学系の 51 学協会が加盟する男女共同参画学協会連絡会の第 4 回シンポジウム「理工系女性研究者支援の新しい波」に参加し、ポスター展示では昨年に引き続き優秀賞を受賞した。

(5) 学術情報部門

学術情報部門会議が掌理する委員会は、化工誌、欧文誌、速報誌の編集委員会とアジア誌刊行委員会である。また刊行物もここで管掌する。機関紙である化工誌は、藤嶋会長、植村編集委員長を中心に昨年 1 月から全面的に誌面を刷新した。欧文誌、速報誌は、両編集委員長を中心に内容の充実を図るとともに、学術情報部門会議で事業の基本方針を決定した。

1) 機関誌関係

18 年からの新設欄である巻頭言欄には、各界のトップの方々にご執筆を願いました。「OVERVIEW」欄には、毎号ニュース性のある企画を取り上げ、「稀少金属資源の展望」、「ケミカルバイオロジーが拓く新たな可能性」、「注目の代替エネルギー、バイオエタノールの可能性」、「高齢化社会の大きな課題 アルツハイマー病の早期治療をめざして」等を掲載した。同じく新設欄である「私の自慢欄」には、各分野の著名人の方々に研究のポイントを、「委員長の招待席」はこれといったテーマを特定せずに多様な記事を掲載した。特集としては、「マイクロリアクター」、「遺伝子治療・医療と化学」「アルコールの酸化ー高効率酸化触媒の開発へ向けて」「実装技術と化学」「ユビキタス社会を担う電池」「生命システムの理解に挑む化学」「太陽エネルギーの活用」「生体利用をめざした炭素材料」「高分子の精密合成・その戦略と高機能化の実現」「もひとつ地方名産品の化学」「化学の融合領域を探る」「ナノテクノロジーの基本」を企画した。会員に気軽に読んでいただく記事欄の「CCI サロン」は、「この人、紹介」と「気まぐれ読書ノート」を新設し、「この人、紹介」には、本年は女性研究者の方々からの寄稿を掲載した。

発行回数 12 回 総頁数 1,831 頁 総発行部数 360,000 部

2) 論文誌関係

現両論文誌購読数は漸減する一方、WEB 版へのアクセスは堅調で、購読契約に替えてアクセス権のサイトライセンス化を進めることを確認した。

サイトライセンスは、欧文誌、速報誌各 1 部の購読料の 80 % をユニットとして、1 倍、2 倍、4 倍、特別の 4 ランクに分け、利用頻度に応じてランクを決める。冊子体については、単価を現行の 20 % 程度としてオプション化する。また、国外のサイトライセンスに関しては、現在 1 機関 1 冊であることかと、根付けの簡素化を考慮して、マルチサイトライセンス分としてもう 1 冊分の値段を設定することとした。

別刷りは著者から pdf ファイルの提供の希望が強く、投稿者の負担は、現状のまま pdf ファイルの価格を現在の印刷体 50 部（義務分）の価格の 80 % にして購入を義務化する。一方、印刷体の価格は 20 % としてオプション化する。両方購入する著者は、これまでと同じ価格で pdf ファイルが新たに提供される形になる。印刷体の需要は最近増えていることから、表紙で pdf 版と差をつけ購入を促す。

一部の大学で既に開始され、また問い合わせる大学も多い機関レボジトリーへの掲載の可否と条件を討議した。世界の出版者の多くは、機関レボジトリーでの無償掲載を認める方向であるが、筋が通らないので、当会としては、オープンアクセスオプションを著者が選択するか、後から著者または機関が同額を払い込まない限り、無償公開は認めないことを確認した。同じ理由で、査読、修正の済んだ著者側に残っている最終原稿の掲載も不可とする。ただし、著者が自分のサーバーに自分の論文の pdf（化学会提供のもの）を載せる（セルフアーカイブ）は認めることとした。

	欧文誌	速報誌
発行回数	12 回	12 回
論文掲載数	326 件	801 件
総頁数	2,974 件	2,061 件
総発行部数	36,000 部	40,450 部

3) 刊行物

①「化学実験のセーフティガイド」を環境・安全推進委員会からの提案を受けて化学同人より刊行した。1、2 年次の大学生が化学実験を始める際の環境・安全のオリエンテーションとなるテキストとして企画し、学生の立場にたって実験安全の「いろは」を丁寧に記述するだけでなく、法規も含めた環境安全衛生も学べる内容としている。

②「実験化学講座 第 5 版」（丸善発行）は、平成 18 年度に次の 6 巻（第 8 巻 NMR・ESR、第 11 巻物質の構造Ⅲ回折、第 20－1 巻分析化学、第 20－2 巻環境化学、第 24 巻表面・界面、第 25 巻触媒化学、電気化学）を刊行し、第 5 版の刊行を完了した。

(6) 産学交流部門

産学交流委員会〔委員長：八浪哲二（ダイセル化学）〕では、本年度4回幹事会を開催し、下記事項について審議したほか、傘下の4分科会で本年度も様々な事業企画を立案し、実行した。

また、運営会議・理事会から付託された事項（次年度産業界選出「役員候補者の推薦・化学技術賞等の受賞候補者推薦など」）について検討し、これに協力した。

●シンポジウム分科会「主査：渡邊英一」

(1) 春季年会における委員会企画の実施

○産学連携 BICS シンポジウム（シリーズ第3回）『生命化学と次世代技術は創薬、医療を変え得るかーケミカルバイオロジーを支えるケミカルライブラリーー』

日時：平成18年3月28日（火）10：00～18：00

場所：日本大学理工学部船橋キャンパス

主催：日本化学会（産学交流委員会・生命化学研究会）、化学技術戦略推進機構（BICS研究会）、科学技術推進機構

- 1) 基調講演：化学と生物学の接点から生まれる創薬戦略（東大先端研）菅 裕明 氏
- 2) ゲノム創薬の展開と展望（東大先端研）油谷 浩幸 氏
- 3) N－結合複合型糖鎖の大量供給とその創薬応用の可能性（大塚製薬）笹岡 三千雄 氏
- 4) ケミカルバイオロジーを旨とした糖鎖研究（慶応大理工）佐藤智典 氏
- 5) コンビナトリアル化学合成の手法と展開（東工大）高橋 孝志 氏
- 6) 新規免疫抑制薬 FT720 の創薬（三菱ウエルファーマ）城内 正嘉 氏
- 7) アフィニティ樹脂を用いた創薬標的分子の探索（リパース・プロテオミクス研）田中 明人 氏
- 8) トランスクリプトーム解析ならびに定量的プロテオーム解析による創薬ケミカルスペースの探索（エーザイ・シーズ研）大和 隆志 氏
- 9) ペプチドライブラリーを利用したタンパク質相互作用検出チップ（東工大生命理工）三原 久和 氏
- 10) 非天然型ペプチドライブラリーの翻訳合成：新創薬シーズ創製に向けて（東大先端研）菅 裕明 氏

○日本化学会 研究所長フォーラム（第5回）『研究人材流動化と産業の活性化ーポストドク“人材”をいかに活かすか、その現状と課題』

日時：平成18年3月27日（月）13：00～17：00

場所：日本大学理工学部船橋キャンパス

主催：日本化学会（将来構想委員会・産学交流委員会）

基調講演：

- 1) ポストドク問題について（科学技術振興機構・理事）北澤 宏一 氏
- 2) ポストドクター等若手研究者の活躍促進に向けた国の取組み（文科省）田中 正朗 氏

パネル討論（第1部：プレゼンテーション）：

- 1) 研究人材流動化促進モデル事業（東大・先端研）澤 昭裕 氏
- 2) 意欲をもって研究を担い、これを支える全ての人にエールを送るー理化学研究所のケースを参考にしてー（理化学研究所・理事）大熊 健司 氏
- 3) 産総研におけるポストドクの活用状況と育成（産総研・企画本部副本部長）伊藤 順司 氏
- 4) 博士人材についての期待と課題（旭化成・顧問）府川 伊三郎 氏
- 5) ポストドクキャリアアチェンジ事例紹介（フューチャラボラトリー代表取締役）橋本 昌隆 氏

パネル討論（第2部：パネル討論）

(2) 講演奨励賞の選考・表彰

特に産業界に関係の深い5部門（高分子、材料化学、材料の機能、材料の応用、資源利用化学）のA、B講演及びアドバンス・テクノロジー・プログラム（ATP）のC、D講演の40歳以下の発表者を対象に産業界関係者40名が聴講、審査を行った。申請のあった212件の中から最終的に16名を表彰。受賞者名及び講演題名を化工誌59巻6月号に掲載した。

(3) 第87春季年会での委員会企画立案

次の2件の委員会企画を第87春季年会実行委員会に提案し、採択され、実施予定である。

○『産学連携：知的財産権にかかわる諸問題と今後のあり方』

日時：平成19年3月26日（月）10：30～16：30

場所：関西大学千里山キャンパス

主催：日本化学会（産学交流委員会）

話題提供：

- 1) 産学の技術移転にかかわる知的財産権ー化学分野の立場からー（三菱化学）渡邊 英一 氏

基調講演：

- 1) 日本における産学連携と研究の技術移転に関する諸問題と将来展望（科学技術振興機構・特任フェロー）村井 眞二 氏

講演：

- 1) 大学発ベンチャー育成の現場から（東大・総合研究機構情報工学部門）松島 克守 氏
 - 2) 産学連携と知的財産権ー企業から見た連携の問題点ー（富士フィルム・R&D統括本部知的財産本部長）浅見 正弘 氏
 - 3) 産学連携と法的問題（飛翔法律事務所 代表弁護士）五島 洋 氏
- パネル討論：講師全員 総司会：渡邊 英一
- 『安全・安心の化学技術ー未来社会へ化学産業が果たすべき役割を考えるー』

日時：平成19年3月27日（火）13：00～17：00

場所：関西大学千里山キャンパス

主催：日本化学会（産学交流委員会）

基調講演：安全安心社会と新産業創造戦略（三菱総研・先端科学研究センター長）亀井 信一 氏

テクノロジー講演：

- 1) テラヘルツ光の応用（名大・院工）川瀬 晃道 氏
- 2) 全固体Liイオン電池ー界面制御による高出力化（物質・材料研究機構）高田 和典 氏
- 3) 免震材料（東工大・院工）西 敏夫 氏
- 4) これからの自動車の安全設計と部材開発（金沢工大・高度材料開発センター）山部 昌 氏

また、（独）科学技術振興機構から「産と学の出合いの場：学から産へのシーズ発表会」の提案があり、第87春季年会において共催の形で企画を行った。ここでの出合いがその後、科学技術振興機構の研究費支援公募事業への応募など産学連携に発展することが期待される。

●技術者育成分科会「主査：田島慶三（三井化学）」

(1) 実力養成化学スクール

企業の若手研究者・技術者の基礎化学の実力アップを目指した実力養成化学スクールを本年度も第4期として実施した。これは特定テーマ別に2日間の集中講義と実力テスト及びランチミーティングを組み合わせたコースで、今年度は高分子化学〔主査：中條善樹（京大院工）〕、キラル化学〔主査：大島幸一郎（京大院工）〕、無機材料化学〔主査：北條純一（九大院工）〕、有機合成化学基礎〔主査：大島幸一郎（京大院工）〕、先端電気化学〔主査：逢坂哲彌（早大理工）〕の5コースを6月から10月にかけて開設、計76名が受講した。無機材料化学のコースは参加者が少なく、残念ながら中止した。

平成19年度は、前年度までの参加状況、企業ニーズなどを鑑み、より基礎的なコースを充実させるべく、4つの基礎化学コース（高分子化学、有機化学、物理化学、生物化学）と化学者・化学技術者にとって必須な素養としての「倫理・環境・安全」コースの計5コースに再編して開設予定。

●R&D分科会〔主査：堂免一成（東大院工）〕

(1) 技術開発フォーラム（塾）

企業の若手研究者・技術者が、異業種・異分野研究者との交流を通して研究課題の進め方、テーマ探索などを自由に意見交換し、広い人脈形成と自己研鑽を行う場としての技術開発フォーラム（塾）を今年度は「依田・弘岡塾」として実施した。

○依田・弘岡塾「イノベーションはどう動くか：企業の技術経営戦略を考える」

日時：平成18年12月1日（金）～2日（土）

場所：和光純薬工業（株）湯河原研修所

プログラム：

- 1) イノベーションのダイナミズムとハイテク戦略（テクノ経済研究所）弘岡 正明 氏
- 2) 電子情報分野の最先端と産業展開の糸口（早大・ナノテクノロジー研究所）和田 恭雄 氏
- 3) バイオ技術の最先端と産業展開の糸口（日本バイオインダストリー協会）三村 邦雄 氏
- 4) イノベーションはどこから起こるか：グローバル企業の成功戦略ーハイデガー「自己矛盾との対話」（立正大・経営）依田 直也 氏
- 5) ハイテク分野のベンチャービジネスへの展開：起業家の糸口と実戦体験（GVIN）桑原 裕 氏
- 6) 自由討論
- (2) R&D 懇話会

企業所属会員の少人数による研究会・勉強会として、トピックステーマの講演会と懇親会からなる定例会開催。会員数約110名。今年度は、会員のニーズを探るためにテーマ内容、開催時間、形式を変えて4回実施した。

- 1) 「企業の若手研究者を勇気づけるナノ化学」（阪大産研）川合知二

「単一分子の化学」（東大院新領域）川合真紀

平成18年5月26日（金）15：30～ 参加者：19名

- 2) 「企業を持続的に発展させるための研究開発マネージメント」（キヤノ

- ン化成) 村井 啓一 氏
平成 18 年 7 月 21 日 (金) 18 : 00 ~ 参加者 : 28 名
- 3) 講演「先端研における産学連携」(東大先端研) 橋本 和仁 氏
見学「光触媒を中心とした先端研橋本研究室の研究紹介」
平成 18 年 10 月 13 日 (金) 15 : 00 ~ 参加者 : 23 名
- 4) 「イオン液体は画期的な材料となるか?」(東京農工大) 大野弘幸 氏
「反応場としてのイオン液体」(東工大院生命理工) 北爪 智哉 氏
平成 18 年 12 月 8 日 (金) 15 : 30 ~ 参加者 : 26 名
来年度はテクノロジー (ディスプレイ、有機太陽電池、LED) とマネージメント関連で 4 回実施予定。
- (3) 大学の就職担当教員と企業の人事担当者交流会
平成 10 年から実施している大学の就職担当教員と企業の人事担当者交流会を平成 18 年度もつぎのように実施した。
日時 : 平成 19 年 1 月 16 日 (火)
場所 : 化学会館 7 階ホール
内容 : ①挨拶・説明、②交流会 (名刺交換会・立食パーティー形式)
参加者 : 121 名 (大学側 42 名、企業側 61 社 78 名)
●産学交流分科会【主催 : 府川伊三郎 (旭化成)】
(1) 産学交流フォーラム
「技術立国を目指す我が国の化学産業の役割 - 証券トップアナリストからの提言 -」を主題に下記のように産学交流フォーラムを開催し、約 100 名の参加を得て、盛況であった。講演後の懇親会で大いに懇親を深めた。
日時 : 平成 18 年 12 月 13 日 (水) 15 : 30 ~
場所 : 化学会館 7 階ホール
講演 : 1) 「日本の化学産業の課題と展望」(日興シティグループ証券) 金井 孝男 氏
2) 「日本のハイテク素材産業は何故かくも強いのか」(野村證券) 尾脇 庸仁 氏
(2) 「学生会員・正会員／企業人事採用担当者 交流会」
春季年会の場を利用して、学生会員および正会員と企業の人事採用担当者との就職面談会を平成 15 年度より実施している。日大理工船舶キャンパスで開催された第 86 春季年会においても
3 月 27 日から 29 日の 3 日間開催し、10 社の企業ブースで面談を実施した。
(3) 化学と工業誌「企業だより」欄の企画編集
化工誌編集委員会からの要請で、化学と工業誌に平成 18 年 1 月号から掲載中の「企業だより」欄の企画編集を行っている。今年度は平成 19 年 8 月までの執筆分担を決めた。また、企業関連記事を増やすことを化工誌編集委員会に提案し、了承されたため、「ATP トピックス」と「研究の現場から」の記事の企画を行った。
- (7) 環境・安全推進委員会
平成 18 年度の本推進委員会 (委員長 : 小尾 欣一) は前年度からの申送事項を踏まえ、大学等化学教育・研究現場における環境・安全管理に有益な情報の提供を主眼に置き、その実現のために安全スクリーニング、リスクコミュニケーション講座等の各種事業を充実させ、実効性ある人材育成事業の拡大を実現した。本年度は、化学セーフティガイドの刊行、環境問題セミナー、失敗知識 DB 活用セミナー、環境・安全問題見学会、環境・安全講習会への講師紹介・講師派遣事業、全日本科学機器展への出展など、多様な新規事業を企画・開催し、あらたな展開を行った。従来からの事業についても状況に応じた変更・改良を行いながら、化学安全ノートの改訂や防災指針事業の継続を行った。
- 1) 推進委員会関係事項
環境・安全シンポジウム : 平成 18 年 3 月 29 日 13 時 30 分 ~ 17 時 00 分、日本大学理工学部 (日本化学会第 86 春季年会)、「大学等の環境・安全管理の充実に向けて - 企業等での経験者の人材活用」人材不足にある大学の環境・安全活動に企業での経験者を活用している事例の紹介を通し、より良い環境・安全管理の実現に向けて情報提供と討論を行った。参加者 : 50 名。
環境問題セミナー : 平成 18 年 11 月 29 日 13 時 00 分 ~ 15 時 00 分、東京ビッグサイト (全日本科学機器展、学会連動セミナー)「サステナブル・テクノロジーへの取り組み」美しい地球の安全な環境を守りつつ、豊かな生活を維持するためのサステナブル・テクノロジーへの化学の取り組みを紹介した。参加者 : 65 名。あわせて全日本科学機器展 (11/29-12/1、来場者 51,315 名) においてブース展示を行い、本会ならびに本推進委員会の活動を紹介した。
「化学実験セーフティガイド」 : 日本化学会編 (化学同人)。化学系の低学年大学生を主な対象として化学実験に関わる安全・健康・環境の基本事項の解説書を刊行した。
環境・安全問題懇談会 : 平成 19 年 2 月 6 日 10 時 00 分 ~ 13 時 00 分、化学会館。本会会長の出席を得て開催された。「新機能物質の安全を考え

- る」について話題提供し、官公庁 (環境省・経済産業省・厚生労働省・東京都)・業界団体 (日本化学工業協会・日本自動車工業会)・報道関係者 (朝日新聞社・読売新聞社)・当該問題有識者へ、環境・安全問題に関して広く意見を求め、活発な意見交換が行われた。参加者 : 20 名。
支部担当委員との懇談会 : 平成 18 年 3 月 29 日 18 時 00 分 ~ 20 時 00 分、第 86 春季年会近辺。支部環境・安全担当委員と意見交換を行った。参加者 : 8 名。
環境・安全問題見学会 : 環境・安全問題への取り組みに優れた施設および設備、先進的な活動を行っている機関・事業所を見学するために新たに企画し、平成 19 年 3 月 28 日 9 時 40 分 ~ 12 時 00 分、住友化学 (株) 有機合成研究所への見学会を実施する予定。
化学物質・プラント分野における失敗知識 DB に係る普及に関する検討 : 科学技術振興機構からの標記受託事業を実施、同データベースおよび同英語版の見直し・更新・拡充を行うとともに、「失敗知識 DB 活用セミナー」3 シリーズ全 6 回を開催した。参加者 : 計 115 名。①「化学プラント管理者・技術者のための安全教育」平成 18 年 9 月 15 日、化学会館。平成 18 年 9 月 19 日、大阪科学技術センター。②「化学プラントにおける化学設備・機器の安全」平成 18 年 11 月 2 日、広島厚生年金会館。平成 18 年 11 月 16 日、化学会館。③「化学物質・プラント分野における失敗知識 DB の活用法」平成 18 年 12 月 12 日、化学会館。平成 18 年 12 月 19 日、メルパルク福岡。
- 2) 防災小委員会関係事項
大学、研究所等における安全衛生教育・管理のためのスクリーニング : 平成 18 年 7 月 31 日 ~ 8 月 1 日、化学会館。大学における教育指導者・管理者、安全管理担当者への安全知識の普及、安全意識の向上を目的とした講習会を開催した。参加者 : 25 名。
「化学安全ノート 改訂版」 : 日本化学会編 (丸善)。大学および企業における安全管理者・安全管理担当者を対象とした安全教育・安全管理のためのテキストを改訂・発行した。本改訂版では、衛生管理、国内の事故事例、廃棄物処理等のトピックスを取り入れ、化審法・労働安全衛生法にも対応させている。
防災指針 : 前年度から編集を行ってきた「ヒドロキシルアミン」を発行した。このほかあらたに「混合危険」を取り上げ、混合危険とは、混合危険を取り上げる必要性 (背景・混合モード)、評価方法 (計算式および実験)・典型の事故事例・毒性等を内容とする総論を企画した。
- 3) 教育小委員会関係事項
環境用語アンケート : 理工系大学一年生を対象とした 6 分野 54 の環境用語に関する認知度の調査を実施した。
「環境の科学」講座 : お茶の水女子大学主催の「化学・生物総合管理の再教育講座」に連携機関として協力し、平成 18 年度の講座を実施するとともに、平成 19 年度の講座を企画した (いずれも全 15 講)。
- 4) 事業小委員会関係事項
リスクコミュニケーション講座 : 平成 19 年 2 月 16 日、化学会館。化学物質の正しい知識・理解を有する人材の育成を目的とし、リスクコミュニケーションの基礎知識・多様な立場と考え方・リスクコミュニケーションの実践方法を学ぶための講習会を開催した。参加者 : 12 名。
講師紹介・講師派遣事業 : 環境・安全関係講習会の講師派遣要請 2 件に対応した。また本推進委員会の社会的任務に鑑み、本会各支部・各大学関係機関からの講師派遣要請に対応するための事務体制整備に着手した。
各種事業の支援 : 本推進委員会各種事業の広報ならびに運営に関する支援を行った。
- 5) 関連組織との連携
環境工学連合講演会 (日本学術会議土木工学・建築学委員会主催。輪番制の幹事学会として関与)、安全工学シンポジウム (日本学術会議総合工学委員会主催。輪番制の幹事学会として関与)、環境人材育成協議会 (仮称) への参画を行った。
グリーン・サステナブル ケミストリーネットワーク (GSCN) へ、構成団体として参画した。
グリーンケミストリー研究会、環境・安全化学・グリーンケミストリー・サステナブルテクノロジー (ディビジョン) との連携・協力を行った。
- 6) 環境・安全推進事業の情報発信と広報活動
本会ホームページ内の「環境・安全のページ」を運営するとともに、メール通信・ダイレクトメール等でさまざまな情報を発信した。
- (8) 化学技術者教育・資格認定委員会
化学技術者教育・資格認定委員会「委員長 : 伊藤 卓 (横国大名誉教授)」では、3 年前から取り組んでいる化学士認定制度発足に向けた最終的な組織ならびに内容構築に向けた作業の推進を課題の中心に据えて、全体会議を 2 回、幹事会を 5 回開催し、下記活動を実施した。また、傘下の 4 小委員会で具体的な案件を審議実施した。資格認定制度に関わる推移の概略は本報告末尾に付記。

●全体会議・幹事会〔委員長：伊藤 卓（横国大名誉教授）〕

1) 全体会議

第1回〔06.3.6（月）〕資格認定制度の骨格についての議論ならびに平成18年度の委員会構成について審議。

第2回〔07.1.17（水）〕資格認定制度実施見送りととの理事会決定を請けて、委員会としての対応・今後の体制について審議。

2) 幹事会

第1回〔06.4.27（木）〕資格認定制度の骨格構築に関わる前年度からの継続審議。

第2回〔06.5.13（土）〕化学士資格認定制度の骨格の最終的纏め。

第3回〔06.7.12（水）〕委員会傘下の各小委員会報告と資格認定制度発足に向けての理事会対応についての審議。

第4回〔06.8.25（金）〕資格認定制度発足に向けてのアンケート結果の集約ならびに運営会議用資料についての審議。

第5回〔06.10.6（金）〕運営会議による資格認定制度実施見送り決定に伴う今後の進め方についての審議。

●化学技術教育運営小委員会（小委員長：服部憲治郎（東京工芸大教授））

第1回〔06.8.17（木）〕JABEE、日本工学会PDE協議会、日本工学教育協会シンポジウム等の状況報告と対応についての審議。

●資格認定運営小委員会（小委員長：戸嶋直樹（山口東京理科大学教授））

第1回〔06.6.8（木）〕資格認定制度骨格の詳細について審議。

第2回〔06.7.1（土）〕資格認定制度全体像の詳細を審議。

第3回〔06.7.29（土）〕資格認定のための審査要領の策定ならびにアンケート実施に向けての審議。

●資格認定試験小委員会（小委員長：城田靖彦（福井工科大学教授））

第1回〔06.7.1（土）〕試験問題作成体制について審議。

第2回〔06.8.11（金）〕試験科目ごとのキーワードの設定ならびに試験問題作成委員の選定。

●継続教育小委員会（小委員長：田島慶三（三井化学））

2007年度から、産学交流委員会の技術者育成分科会から本委員会に移す前提で本委員会のなかに小委員会を設置した。今年度は技術者育成分科会として開催。

第1回〔06.7.19（水）〕来年度の実力養成化学スクールの編成について審議。

第2回〔06.11.28（火）〕来年度の実力養成化学スクールの詳細の決定。

【付記】

化学士資格認定制度に関わる審議の推移

平成14年7月22日開催の運営会議（野依良治会長）において、当時の化学技術者教育委員会より具申された化学士資格認定制度検討に対して、「化学技術者の減少が見込まれる中、技術者育成の観点からも資格付与は望ましく、権威のある見識を持った機関がそれを行うべきであり、化学会として技術者認定制度の検討をおこなう。」旨の決定がなされ、同委員会に対して諮問がなされた。これを請けて平成15年度から同委員会内にWGを設置して検討を開始、その後平成16年度からは化学士認定制度策定小委員会を組織して集中的な検討を重ねてきた。検討の推移については、随時理事会に報告する一方、化学と工業誌を通して周知に努めてきた。

こうした経緯を経て、平成18年度には制度の骨格構築もほぼ完成に至ったため、同年度から部分実施（平成19年春に認定開始）を視野に入れた最終的な確認を行う一方、概略つぎの骨格案に基づく部分実施について平成18年9月6日の運営会議に上程した。運営会議では審議の結果、本制度を実施する上でのニーズが不明確であること、学会として負うリスクが過大であることなどの理由で、制度の実施は当分見送るとの結論に至った。

資格の種類：2級化学士・1級化学士・上級化学士の3段階とする。

審査方法：試験問題として、倫理・環境・安全の3分野をすべての資格に対して必須とし、その他は資格に応じて、基礎5分野（有機化学、無機化学、物理化学、高分子化学、生物化学）および応用化学分野（合成・触媒・プロセス、バイオテクノロジー、材料・ナノテクノロジー、分析・計測、環境技術）を用意する。認定試験受験の要件に対応して、自己啓発ポイントの制度を設ける。

資格の有効期限：5年間とする。

（9）化学教育協議会

中長期目標「化学教育協議会の進むべき道－目立つ形に、頼られる存在に」のもと、18年度スローガンを「化学会に軸足をのいた化学教育活動の展開」を立て、下記4項目を重点課題として実施した。

①化学教育ディビジョン制度発足に対応した化学教育協議会の位置づけの検討

②次代「理科」教育課程における、科目「化学」のあるべき形についての議論の深化

③教師の質の向上のための具体的方策の検討：「教員のゆとり」に関する実

態調査のとりまとめと提言書の作成

④各地7支部化学教育協議会との連携・支援のいっそうの強化ならびに関係諸団体との連携事業の継続的推進

特記事項としては、①「教員の質確保に向けた提言」を藤嶋昭会長名で8月22日に文部科学大臣、中央教育審議会会長宛に提出、②化学だいきクラブの運営を化学教育協議会が担当することになったことに伴い、今後は中高生を対象にした活動に軸足を置くとともに、小学生に対しても夢化学事業と連携して対応を続けることとし、主として中高生向けの「化学だいきクラブNewsletter」と主として小学生向けの「化学だいきッズ」の2誌を発行することとしたこと、③日英科学教育シンポジウム2006（日英化学教育シンポジウム）を日本化学会とブリティッシュ・カウンシルとの共同主催で2006年12月9日-10日にそれぞれ東京工業大学付属科学技術高等学校と日本科学未来館を会場にして開催、④議長支部訪問（講演等）は、東北支部（化学教育研究協議会、9/24）、中国四国支部（化学教育研究発表会、10/9）、近畿支部（化学教育サロン、10/21）、東海支部（高等学校化学研究発表交流会、11/3）で実施。⑤栢山支部担当副議長が近畿支部（化学教育研究発表会、6/11）、西日本大会（11/18～19）に参加し、各支部での活動の一端を把握し、交流を実施、⑥菅原担当理事が北海道地区化学教育研究協議会（11/11～12）に参加し、「化学だいきクラブ」についての講演（紹介）実施、⑦化学教育フォーラム「初等中等教育課程における「化学」のあるべき姿」を2006年3月30日に日本大学理工学部西船橋キャンパスで実施した。上記③や外部の教育に関する各種企画については、ディビジョンのメール発信などにより広く呼びかけることを行った。上記特記事項以外の各委員会の項目を下記する。

学校教育委員会：教育課程部会「審議経過報告」に対する意見提出（3/29）を行った。傘下のWGとしては、大学入試問題およびセンター試験の検討実施、中高一貫の化学の本検討過程に出てきた、大学向けテキストの商業出版（入門編；平成19年3月の刊行予定）に注力、海外8カ国の理科教員の養成や研修内容等の調査、化教誌への連載を行った。

普及・交流委員会：①リーフレット「次世代を担う若者たちへ」は好評、販売も順調で第3刷、5,000部増刷、②高校生に焦点を当てた新たなリーフレット（化学の面白さ、他分野との関連等を示すことによる化学の広がり、ひいては将来の職業イメージも描けるようなもの）検討の開始、③化教誌の埋め草「知っとく情報」「先達からのメッセージ」の冊子化を実施した。④「国際関係小委員会」では韓国・台湾・日本を中心とするアジアの化学教育関係者ネットワーク（NICE）構築を目指し、第1回ミーティングに5名参加、⑤「夢化学小委員会」では「なゼナニクイズショー」新バージョンを完成、夏休み子ども実験ショーで披露、子どもゆめ基金を利用した、教員、保育士、青少年委員のための効果的な理科・化学実験指導プログラムの開発、実施（6回）、JSTの理科大好きプランを利用した実験教室（5回）、また、夢・化学-21事業の出前実験教室（7回）にも委員が参加、朝日小学生新聞の『わくわく理科タイム』は3年目、東洋館出版社（日本化学会監修）から16年度版に続き、17年度版の編集も進んでいる。

化教誌編集委員会：投稿原稿の諸課題（不適正な内容、審査時間増、投稿件数減等）の根本的な解決のため、年度途中から「投稿原稿検討WG」を設置し、実践的内容の有無、オリジナリティの有無などから投稿原稿の種別を「論文」・「私のくふう」・「実践報告」・「論壇」・「調査報告」に分け、このほか会員から気楽に投稿できる「私の一言」の欄も設けることとした（4月から実施）。

化学グランプリ・オリンピック委員会：①全国高校化学グランプリ2006（一次選考7/17、全国30会場で1,318名が参加。二次選考8/21、一次選考上位63名（うち1、2年生9名）、東京工業大学）を実施。②第38回国際化学オリンピック（韓国・慶山2005.7.2-11）に4名を派遣、金1、銀3受賞。③2010年度のIChO日本開催が決定。『化学オリンピック日本委員会』（委員長：野依良治）が12月8日に発足した。④グランプリ過去問を高等学校の先生を中心に解説を加えた、普及書を作成した。

その他、①化学アーカイブズ小委員会は資料の収集・DB構築を昨年に引き続き実施した。②教科「理科」関連学会協議会（CSERS）では、日本科学教育学会年会企画課題研究発表会「新教育課程における「理科」のあるべき姿」（8/20）、第11回シンポジウム「理科の授業の質を高める環境を」（12/2）の二つのシンポジウムを開催した。

平成18年度化学教育協議会

議長 伊藤 卓（横浜国立大学名誉教授）

副議長（学校教育委員会委員長） 市村禎二郎（東京工業大学）

副議長（普及交流委員会委員長） 栢山正樹（東京女学館中・高等学校）

副議長（化教誌編集委員会委員長） 渡部徳子（青山女子短期大学）

副議長（化学グランプリ・オリンピック委員会委員長） 杉村秀幸（横浜国立大学）

役員 有賀正裕、今倉康宏、歌川晶子、大方勝男、太田暉人、下井 守、菅原義之、玉尾皓平、長沼 健、中村 博、平尾一之、古川睦久、細矢治夫、松原静郎、葉袋佳孝、村松 隆、渡辺 正

8. 平成 18 年度支部事業

(1) 北海道支部

事業名	回数	講演件数 ()内は 特別講演 件数	見 学 会	その他	懇 親 会	参 加 者 数
支部役員幹事会	3			3		56
支部役員懇親会	2				2	30
化学教育協議会	2			2		16
学会賞・学術賞等推薦委員会	1			1		14
支部役員選考委員会	1			1		13
北海道支部代議員会	2			2		18
北海道支部奨励賞選考委員会	1			1		6
北海道支部優秀講演賞・ポスター 賞選考委員会	1			1		6
夏季研究発表会（支部大会）	1	121 (2)				248
冬季研究発表会	1	112 (2)				223
安全・環境推進事業（講習会）	1	6 (1)				50
地区化学教育研究協議会	1	6 (1)				45
地区化学講演会	4	(6)				274
化学系大学への体験入学	1	(2)				33
中高生のための化学（出前講義）	3	3				250
中学生のための化学実験講座	4	(1)				144
高校理科クラブ支部奨励賞表彰	1			1		
外国人講演会	10	10				481
日本人講演会	5	5				240
共催討論会	6	77 (26)				539
セミナー（共催）	3	67 (21)				449

(2) 東北支部

事業名	回数	講演件数 ()内は 特別講演 件数	見 学 会	その他	懇 親 会	参 加 者 数
幹事会	3				2	
各賞推薦委員会	1					
会長懇談会	1					
化学教育協議会議長懇談会	1					
代議員会	2					
化学系学協会東北大会	1	313 (特別：4/ 依頼 10)			1	482
東北支部長賞	1					30 校
地区講演会						
青森地区	1	3			1	40
岩手地区	1	3				83
山形地区	1	1			1	100
福島地区	1	3				50
宮城地区	1	2				54
会員増強のための講演会（秋田）	1	2			1	48
講習会						
高分子化学コロキウム	1	4			1	54
無機・分析化学コロキウム	1	11				97
有機化学コロキウム	1	6			1	50
石炭化学コロキウム	1	5			1	80
物理化学コロキウム	1	7			1	40
化学普及事業						
化学教育研究協議会東北大会	1	14 (2)			1	60
化学への招待						
弘前地区（東北支部第 149 回）	1	1				73
八戸地区（東北支部第 153 回）	2	2			2	37
秋田地区（東北支部第 147 回）	1					18
岩手地区（東北支部第 145 回）	1	1				37
山形地区（東北支部第 150 回）	1					60
米沢地区（東北支部第 148 回）	1					42
宮城地区（東北支部第 146 回）	1					90
いわき地区（東北支部第 152 回）	1					101
郡山地区（東北支部第 151 回）	1					22
中学生のための化学実験講座	21					780
一訪問実験—鶴岡						

（東北支部第 154 回）
第 29 回教師のための化学教育講座
全国高校化学グランプリ 2006
一次選考

1 6会場	5	1	実習 2	1	29 235
----------	---	---	------	---	-----------

(3) 関東支部

事業名	回数	講演件数 ()内は 特別講演 件数	見 学 会	その他	懇 親 会	参 加 者 数
幹事会	5				2	159
常任幹事会	3					29
代議員会	1				1	64
各賞推薦委員会	1					14
会員委員会	1					8
事業企画委員会	2				1	29
支部化学教育協議会関係						
・全体会議	1				1	20
・理科・化学教育懇談会小委員会	1					4
・化学クラブ小委員会	1					5
電子情報委員会	1					4
就職交流会 WG 会合	1					6
新規事業検討 WG 会合	3					22
第 1 回関東支部大会実行委員会	1					13
講演会「バイオプラスチック実用 化の現状と将来展望」	1	5				100
講演会「可視化研究の最前線」	1	5				30
講演会「匠に学ぶ有機合成の新しい 技」	1	6				31
講演会「燃料電池用材料開発の最 前線と課題～サステイナブル社会 への扉」	1	5				57
講演会「夢をかなえる有機トラン ジスタの最前線技術」	1	5				56
特別講演会	3	3			1	174
化学系学生のための企業合同説明会	1			参加企業 22 社		134
英語プレゼン塾	1					21
電子メール配信	28					
地域懇談会						
・茨城地区						
第 17 回研究交流会	1	1		ポスター 発表 89 件	1	226
学校訪問講義・講演会など	13					
・栃木地区						
高校訪問講義・実験など	6					342
講演会	2	3				154
・群馬地区						
地域懇談会	1	1		ポスター 発表 55 件	1	250
講演会	1	2				250
理科教育談話会	1	2				37
講師派遣	8					269
・山梨地区						
講演会	2	3				130
高校・大学化学系教員懇談会	1					27
学校訪問実験	7					583
・新潟地区						
〔新潟地区〕						
運営委員会	2	2				
企業交流・講演会	1	1		企業紹介 10 社		48
学校訪問実験	2					42
〔長岡地区〕						
分子科学サマースクール	1					2
啓蒙実験・化学のおもちゃ箱	1			実験 5 テーマ		512
企業説明会	1	1		企業紹介 8 社		60
・埼玉地区						
講演会	1					75
埼玉大学工学部サイエンススクール	1					36
埼玉大学理学部・工学部フェア	1					950

小学生・化学実験体験	1				52
理科教育研究発表会	1				250
・千葉地区					
学校訪問講義実験	3				80
千葉地区高校教諭と大学教員の懇談会	1				30
千葉大学1日体験化学教室					20
・神奈川地区					
講演会	2	2			64
・東京地区					
学校訪問講義実験	1				40
化学教育関連事業					
・化学への招待—講演会	1	3			119
・化学への招待—1日体験化学教室					
一茨城大学1日体験化学教室	1	1	実験 8		45
			テーマ		
一宇都宮大学1日体験化学教室	1	1	実験 19		93
			テーマ		
一神奈川大学湘南ひらつかキャンパス1日体験化学教室	1		実験 11		75
			テーマ		
一群馬大学1日体験化学教室	1		実験 9		160
			テーマ		
一首都大学東京1日体験化学教室	1		実験 14		86
			テーマ		
一城西大学1日体験化学教室	1	1	1	演示実験 4	75
				テーマ	
一成蹊大学1日体験科学教室	1	1	参加実験 4	テーマ	
				実験 16	84
				テーマ	
一筑波大学1日体験化学教室	1	1	実験 16		82
				テーマ	
一東京工業大学1日体験化学教室	1	1	1	実験 3	105
				テーマ	
一東京大学1日体験化学教室	1	1	実験 11		76
				テーマ	
一東京農工大学1日体験先端化学研究	1		実験 9		79
				テーマ	
一東邦大学夏休み理科教室	1		実験 2		51
				テーマ	
一新潟大学1日体験化学教室	1	1	実験 19		88
				テーマ	
一日本大学理工学部1日体験化学教室	1		実験 9		145
				テーマ	
一横浜国立大学1日体験物質工	1	1	実験 12		47
				テーマ	
・第10回理科・化学教育懇談会フォーラム	1	3			80
・化学クラブ研究発表会	1		発表 28 件		269
・化学実験実技講習会	1	1			26
・楽しい化学の実験室	8				169
・高校生のための化学実験講座	6				58
・化学実験講座	6				105
〔共催・協賛・後援事業〕					
6 件の共催・協賛・後援依頼を承認した					

(4) 東海支部

事業名	回数	講演件数 ()内は 特別講演 件数	見学会	その他	懇親会	参加者数
幹事会	2					
常任幹事会	3					
代議員会	2					
学会賞等推薦委員会	1					
職域代表者会議	1					
会長懇談会	1					
科研費候補者審査委員候補者選考会議	1					
第 37 回中化連秋季大会	1	292 (2)			1	527
名古屋コンファレンス	1	11			1	91
東海コンファレンス	1	9			1	260

地区講演会（岐阜）						
第 1 回	1	1			60	
第 2 回	1	1		1	70	
第 3 回	1	1		1	80	
化学安全セミナー	1	3		1	65	
先端化学セミナー	1	4		1	48	
訪日学者講演会						
Yulian M. Vysochanskii	1	1			20	
David G. Whitten	1	1			35	
Wen-Sheng Chung	1	1			38	
金 建中 (Geon-Joong Kim)	1	1			55	
Ganesh Pandey	1	1			60	
金 鍾鎬 (Jong-Ho Kim)	1	1			40	
Dr. Naresh KUMAR	1	1			14	
Dr. Jonathan R. Woodward	1	1			16	
Dr. Chandrakant Dnyandeve Lokhande	1	1			43	
Assoc. Prof. Proespichaya Kanatharana	1	1			50	
Professor David O'Hagan	1	1			62	
中学生のための化学講座						
鈴鹿高専	1			7	66	
沼津高専	1			2	26	
東海地区化学教育討論会（岐阜）	1	1		6	1	50
化学への招待	1	3				59
化学教育セミナー	1	2			1	70
高等学校化学研究発表交流会	1	9				70
講師派遣事業						
愛知	3	3				126
岐阜	1	1				35
三重	1	1				21
高校生のための化学講座						
岐阜（岐阜大工）	1			8		85
三重（三重大工）	1		1	11		120
静岡（静岡大工）	1		4	3		23
長野（信州大教）	1	1		1		18
共催・協賛事業						
第 29 回基礎化学工学演習講座	1	12				93
第 43 回 CVD 研究会	1	8				31
第 19 回カーボンマイクロコイル研究会	1	8				62
第 40 回化学工学の進歩講習会	1	14				77
名古屋メダルセミナー	1	2				193
東海化学工業会セミナー	1	5				48
第 39 回研究交流セミナー	1	4				34
第 44 回 CVD 研究会	1					37
色材アドバンストセミナー	1	4				50
第 26 回古川為三郎サイエンス講演会	1	1				116
平成 18 年度東海シンポジウム	1	11				74

(5) 近畿支部

事業名	回数	講演件数 ()内は 特別講演 件数	見学会	その他	懇親会	参加者数
幹事会	5				2	184
常任幹事会	2					36
WG 会議	2					49
代議員会	1					32
学会賞等推薦委員会	1					31
化学教育協議会	4					60
化学への招待企画小委員会	1					7
北陸地区講演会と研究発表会	1	2		ポスター 163 件	1	350
奈良地区講演会	1	3			1	110
第 13 回化学安全講習会	1	8				73
研究最前線講演会・交流会	1	4			1	99
講習会「研究室で実現できる最新化学計算」	1	2		実習あり		14
化学教育サロン	1	4			1	47
大学化学入試問題をめぐる大学～高校交流会	1				1	123

第 8 回工業高等専門学校生化学研究発表会	1		発表 12 件	37
第 21 回石川地区中学高校生徒化学研究発表会	1		発表 30 件	122
第 23 回高等学校・中学校生徒化学研究発表会	1		発表 24 件	147
第 8 回近畿地区 化学教育研究発表会	1		発表 7 件	47
化学への招待				
・子と親の楽しいかがく教室（大阪府立工業高等専門学校）	1		実験 7 テーマ	113
・子と親の楽しいかがく教室（大阪教育大学）	1	1	実験 26 テーマ	81
高等学校出前講演会				
・兵庫県立須磨東高等学校	1	1		60
・滋賀県立米原高等学校	1	1		80
・石川県立七尾高等学校	1	1		170
・大阪府立三国丘高等学校	1	1		25
全国高校化学グランプリ 2006 第一次選考（大阪、石川、富山）	3会場			215

（6）中国四国支部

事業名	回数	講演件数 ()内は 特別講演 件数	見学会	その他	懇親会	参加者数
役員会						
幹事会	3					129
化学教育協議会	2					33
代議員会	1					17
会長と支部幹事の懇談会	1					
新産業創出セミナー	1	招待 6			1	75
地区化学講演会						
広島地区化学講演会	1	招待 4				70
島根地区化学講演会	1	招待 2			1	51
		2				
高知地区化学講演会	1	招待 4				83
山口地区化学講演会		招待 4				164
国際交流講演会						
You Xiao-Zeng 教授（南京大学）講演会	1	1				30
Christian G.Bochet 講演会	1	1				35
Prof.Irena G. Stara 講演会	1	1				25
安全・環境セミナー	1	招待 1				133
支部化学教育研究発表会	1	招待 4 一般 8			1	88
支部広報事業						
愛媛：夢・化学— 21 化学への招待 in 愛媛	1				実験 15	101
鳥取：夢・化学— 21 鳥取大学 一日化学実験教室	1				実験 8	70
広島：平成 18 年高校・大学 化学教育フォーラム	1	3				30
岡山：夢・化学— 21 高校生のための岡山大学化学系学科見学会と談話会	1				実験 4 談話会 1	22
島根：化学と遊ぼう	1				実験 9	120
島根：夢化学 21	1				実験 3	42
香川：夢・化学— 21in 香川	1				実験 4	488
香川：化学教育談話会	1				談話会 1	52
徳島：夢化学 21 化学への招待	1				実験 6	51
おもしろワクワク化学の世界 06 岡山化学展	1				演示実験 13 展示	5265
出張講義	70				講義	3489
中国四国支部支部長賞	1				表彰	82
全国高校化学グランプリ	1				表彰	10
第 44 回中国四国産学連携化学フォーラム	1	5			1	70
第 45 回中国四国産学連携化学フォーラム	1	招待 3 4			1	94

地区基盤特別事業					
化学（理科）教育の在り方を考えるシンポジウム	1	特別（1）			31
情報ネットワーク推進事業 共催事業	1		HP 更新		
・第 56 回錯体化学討論会	1				1100
・日本分析化学会中国四国支部分析化学講習会	1				130
・第 3 回ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム	1				144
・第 38 回構造有機化学若手の会夏の学校	1				86
・夢・化学 21 化学への招待高校生のために（広島）	1				200
・高分子学会第 32 回中国四国支部高分子講座	1				
・第 30 回フッ素化学討論会	1				

（7）九州支部

事業名	回数	講演件数 ()内は 特別講演 件数	見学会	その他	懇親会	参加者数
幹事会	1		1		1	32
常任幹事会	1					14
化学教育協議会	1					19
国際化学オリンピック・高校化学グランプリ説明会	1	1				19
各賞推薦委員会	1					10
代議員会	1					6
会長懇談会	1					44
九州支部長賞（6 高専）	1					6
2006 年日本化学会西日本大会		特別講演 4 件 口頭 208 件		ミニシンポ 4 件 ポスター 140 件	1	504
第 4 回化学イノベーションシンポジウム	1	12			1	230
講演会	1	3				207
第 43 回化学関連支部合同九州大会（8 学協会共催）	1	8（1）			1	800
第 26 回支部シンポジウム「ナノサイエンス・テクノロジーと燃料電池」	1	5				127
第 27 回支部シンポジウム「イオン液体化学の基礎とイノベーション」	1	6				79
第 17 回産学交流ユースフォーラム	1	4			1	47
第 16 回高専フォーラム	1	5			1	35
環境・安全に関する事業	1	4				70
共催・協賛事業						
第 35 回窯業基礎九州懇話会	1	4				45
第 15 回 KFC セラミックスセミナー	1	1		1		5
第 4 回九州大学分析センターセミナー	1	5				49
九大 21 世紀 COE 分子情報科学 KFC セラミックス講演会	1	8（1） 2				67 51
第 47 回分析化学講習会	1					
第 18 回若手研究者のためのセミナー	1	11（1）		ポスター 32 件		67
体験！化学の不思議—化学への招待—	1					67
第 24 回九州コロイドコロキウム	1	5		ポスター 8 件		
第 13 回九州夏期セラミックス研究会	1	2				25
第 45 回工業物理化学講習会	1	4				81
第 2 回分子情報化学の機能イノベーションに関する国際シンポジウム	1	10				300
有機金属部会平成 18 年度第 3 回例会	1	3				112

第 33 回有機典型元素討論会	1	53 (4)	ポスター 69 件		
国際会議 The Fukuoka Symposium	1	11		1	152
第 49 回化学への招待 (九大工)	1		実験 8 件		138
第 50 回化学への招待 (福教大)	1		実験 4 件		17
第 51 回化学への招待「テクノファ ンタジー」(崇城大)	1		体験型 実習		2783
第 52 回化学への招待 (鹿児島大)	1		体験型 実習		89
九州地区化学振興事業 福岡県					
「子どもゆめ基金助成」身のまわ りの化学物質について学ぼう	1		実験 4 件		37
第 20 回福岡県高校化学クラブ研 究発表会	1	1			
福岡県理科・化学教育懇談会総会	1	1			50
佐賀県 佐賀県理科・化学教育懇談会総 会	2				30
第 6 回佐賀県理科・化学教育研究 発表会	1				80
長崎県					
サイエンスワールド 2006	1				500
化学まつり	1				214
長崎県理科・化学教育懇談会総会	1				26
化学クラブ研究発表会	1				28
大分県					
夏休み子供サイエンス 2006	1				1292

大分県理科・化学教育懇談会総会	1				
熊本県					
第 13 回化学実験講習会「がん細 胞の細胞死に関する観察」	1		実験 2 テーマ		16
熊本県理科・化学教育懇談会総会	1				16
第 57 回熊本県高等学校生徒理科 研究発表会 (化学部門)	1		研究発表		43
夢科学探検 2006	1		体験型 演示実験 研究発表		700
第 14 回九州地区高等学校化学ク ラブ研究発表大会	1				357
宮崎県					
第 6 回高校生のための化学実験 室～全国高校化学グランプリに むけて～	1				48(9 校)
第 3 回高校生のためのマニフ ェクチャリングコンテスト	1				48(7 校、 10 チーム)
宮崎県第 1 回幹事会	1				11
第 6 回先生のための化学講座	1				17
宮崎県平成 18 年度総会	1				17
鹿児島県					
鹿児島県理科・化学教育懇談会 総会	1				19
沖縄県					
明日の事業へ活かす化学教育ワ ークショップ	1				39
全国高校化学グランプリ第一次選 考	10 会場				255

9. 平成 19 年度支部役員

(1) 北海道支部

支部長 嶋田 志郎 (北大院工)	
副支部長 高橋 保 (北大触媒セ)	浅川 哲弥 (道教大旭川)
庶務幹事 明石 孝也 (北大院工)	小笠原 正道 (北大触媒セ)
会計幹事 清野 肇 (北大院工)	
監 査 多田 旭男 (北見工大)	魚崎 浩平 (北大院理)
環境安全担当 嶋津 克明 (北大院地環)	宇都 正幸 (北見工大)
幹 事 伊藤 秀明 (日本製鋼室蘭)	
カーthouse オラフ (千歳科技大)	
奥田 弥生 (苫小牧高専)	鈴木 正昭 (産総研北海道セ)
原 正治 (北大院工)	日夏 幸雄 (北大院理)
津田 勝幸 (旭川高専)	太田 信廣 (北大電子研)
中村 博 (北大院地環)	近藤 浩文 (道立理科セ)
吉田 孝 (北見工大)	小原 寿幸 (函館高専)
太田 勝久 (室蘭工大)	加藤 昌子 (北大院理)
伊藤 八十男 (道立衛生研)	

(2) 東北支部

支部長 大野 公一 (東北大院理)	
副支部長 板谷 謹悟 (東北大院工)	楨 雄二 (山形大理)
幹事長 岩本 武明 (東北大院理)	
会 計 岸本 直樹 (東北大院理)	
会員担当 西澤 松彦 (東北大院工)	
化学教育協議会議長 池山 剛 (宮城教育大)	
幹 事 渡邊 賢 (東北大院工)	猿渡 英之 (宮城教育大)
佐々木 大和 (松島高)	澤田 英夫 (弘前大理工)
大久保 恵 (八戸高専)	齊藤 貴之 (八戸高専)
西野 智路 (秋田高専)	岩田 吉弘 (秋田大教育文化)
大石 好行 (岩手大工)	南 一郎 (岩手大工)
栗山 恭直 (山形大理)	坂本 正臣 (山形大理)
立花 和宏 (山形大工)	瀬川 透 (鶴岡高専)
生田 博将 (福島大理工)	玉井 康文 (日大工)
熊沢 智 (クレハ)	

(3) 関東支部

支部長 大倉 一郎 (東工大院生命理工)

副支部長 辻 尚志 (味の素研究開発企画)

西村 淳 (群馬大院工)	
幹 事 浅香 隆 (東海大工)	有賀 克彦 (物質材料研超分子)
池田 宰 (宇都宮大工)	石井 昭彦 (埼玉大院理工)
板垣 昌幸 (東理大理工)	板橋 英之 (群馬大院工)
岩橋 横夫 (北里大理)	上田 一義 (横浜国大院工)
梅田 実 (長岡技科大物質・材料)	
岡野 光俊 (東京工芸大工)	小川 順 (昭和電工技術戦略)
小尾 直紀 (大日本インキ技術生産)	
加藤 立久 (城西大理)	加藤 正直 (長岡高専物質工)
唐津 孝 (千葉大院自然)	木越 英夫 (筑波大院数理物質)
久保 英夫 (日本曹達機能化学品)	
久保田 俊夫 (茨城大工)	鯉沼 康美 (日本油脂研究本部)
小畠 英理 (東工大院生命理工)	近藤 寛 (東大院理)
柴田 正実 (山梨大院医学工学)	
清水 敦 (旭化成ケミカルズ製品開発研)	
清水 政男 (産総研環境化学技術)	
神保 良弘 (富士フィルム有機合成研)	
鈴木 俊彰 (理研中研)	鈴木 敏夫 (新潟大工)
鈴木 憲子 (昭和薬科大薬)	
高井 正樹 (三菱化学科学技術研究セ)	
竹山 春子 (東農工大院共生科学)	
立間 徹 (東大生産研)	田中 秀樹 (中央大理工)
田中 康裕 (宇部興産有機機能材研)	
長澤 和夫 (東農工大院共生科学)	
中村 聡 (東工大院生命理工)	西澤 義則 (花王生物科学研)
野村 淳子 (東工大資源研)	萩原 俊紀 (日大理工)
長谷川 健 (東工大院理工)	花屋 実 (群馬大院工)
原 亨和 (東工大応セラ研)	火原 彰秀 (東大院工)
藤原 忍 (慶應大理工)	古田 寿昭 (東邦大理)
前川 康成 (原研量子ビーム応用研究)	
松方 正彦 (早稲田大理工学術)	松永 茂樹 (東大院農)
宮坂 力 (桐蔭横浜大院工)	
矢津 一正 (産総研エネルギー技術)	
山中 一郎 (東工大院理工)	山村 博 (神奈川大工)
山本 信之 (ライオン機能素材研)	
監 査 伊与田 正彦 (首都大院理工)	渡辺 正 (東大生産研)

(4) 東海支部

支部長 早川 芳宏 (名大院情報)
副支部長 稲垣 都士 (岐阜大工) 武田 保雄 (三重大院工)
庶務幹事 北出 幸夫 (岐阜大工)
会計幹事 大谷 肇 (名工大院工)
常任幹事 河本 邦仁 (名大院工) 大矢 豊 (岐阜大工)
伊津野 真一 (豊橋技科大) 上垣外 正己 (名大院工)
西川 俊夫 (名大院生命農) 稲毛 正彦 (愛知教育大)
柴田 哲男 (名工大院工) 菅 博幸 (信州大工)
西澤 かおり (産総研) 石井 昌彦 (豊田中研)
村井 利昭 (岐阜大工) 太田 清久 (三重大工)
太田 大次郎 (石原産業) 長原 滋 (鈴鹿高専)
長沼 健 (愛知教育大) 樋上 照男 (信州大理)
福田 博行 (名市工研) 佐藤 謙一 (東レ)
幹 事 井上 真一 (愛知工大工) 宇佐見 久尚 (信州大繊維)
瓜谷 真裕 (静岡大理) 佐古 猛 (静岡大工)
山盛 博夫 (東亜合成) 山中 淳平 (名市大院薬)
盛 秀彦 (中部大工) 斉藤 真司 (分子研)
多井 豊 (産総研) 大内 幸雄 (名大院理)
鳥本 司 (名大院工) 日比野 高士 (名大院環境)
北出 和久 (東海テクノ)
監 査 上村 大輔 (名大院理) 高須 芳雄 (信州大繊維)

(5) 近畿支部

支部長 大駕幸一郎 (京大院工)
副支部長 上 真樹 (東レ) 民秋 均 (立命館大理工)
次期支部長 平尾 俊一 (阪大院工)
幹 事 柴山 晃一 (積水化学) 柳 日馨 (阪府大院理)
黒田 重靖 (富山大工) 宮澤 真宏 (富山大理)
本田 光典 (金沢大院自然科学) 水野 元博 (金沢大自然科学)
山口 政之 (北陸先端大) 高橋 一朗 (福井大工)
浅原 雅浩 (福井大教育) 藤原 学 (龍谷大理工)
山子 茂 (京大化研) 柴田 誠一 (京大原子研)
吉崎 武尚 (京大院工) 大場 正昭 (京大院工)
藤田 晃司 (京大院工) 安部 武志 (京大院工)
内本 喜晴 (京大院人環) 加納 太一 (京大院理)
安藤 耕司 (京大院理) 今野 勉 (京都工繊大)
佐々木 健 (京都工繊大) 大嶋 孝志 (阪大院基礎工)
池田 茂 (阪大太陽エネルギー研)
三浦 雅博 (阪大院工) 宇山 浩 (阪大院工)
中谷 和彦 (阪大産研) 鷹野 優 (阪大蛋白研)
奥村 光隆 (阪大院理) 宮崎 裕司 (阪大院理)
山口 和也 (阪大院理) 谷 敬太 (大阪教育大教育)
松本 章一 (阪市大院工) ハッ橋知幸 (阪市大院理)
小川 昭弥 (阪府大院工) 田中富士雄 (阪府大院理)
水畑 穰 (神戸大院工) 林 昌彦 (神戸大院理)
川月 喜弘 (兵庫県立大工)
八尾 浩史 (兵庫県立大院物質理)
梶原 篤 (奈良教育大) 竹内 孝江 (奈良女大理)
垣内喜代三 (奈良先端大) 神田和香子 (和歌山大教育)
山門 英雄 (和歌山大システム工)
玉置 純 (立命館大理工) 小寺 政人 (同志社大工)
中村 吉伸 (大阪工業大) 田中 耕一 (関西大化学生命工)
藤原 尚 (近畿大理工) 山田 英俊 (関西学院大理工)
町田 信也 (甲南大理工) 吉村忠与志 (福井高専)
嶋田 豊司 (奈良高専) 藤山 博之 (産総研)
松川 公洋 (阪市工研) 櫻井 芳昭 (阪府産技総研)
川俣 章 (花王) 中川 佳樹 (カネカ)
小池 正実 (三洋化成) 高山 正己 (塩野義製薬)
坂本 典保 (住友化学) 脇屋 武司 (積水化学)
窪田 均 (田辺製薬) 村井 良行 (ダイセル化学)
大井 悟 (武田薬品) 加地 篤 (東洋紡)
中川 浩一 (日本触媒) 竹内 誠 (アステラス製薬)
鈴木 正明 (松下電器) 高井 敏浩 (三井化学)

化学教育協議会近畿支部議長 有賀 正裕 (大阪教育大教育)

化学への招待

企画小委員会委員長 成相 裕之 (神戸大院工)

(6) 中国四国支部

支部長 山中 昭司 (広島大院工)
副支部長 西原 浩 (香川大教育)

松原 一博 (旭化成ケミカルズ化学技術研)

支部監査 原田 勝正 (宇部興産宇部研)

阿部 憲孝 (山口大理)

次年度支部長 相田 美砂子 (広島大院理)

地区幹事 齋本 博之 (鳥取大工) 和田 英治 (鳥根大総理工)
山本 達之 (鳥根大生資科学) 三宅 通博 (岡山大院環境)
西原 康師 (岡山大理) 岸本 昭 (岡山大工)
竹崎 誠 (岡山理大工) 岩崎 秀治 (クラレくらしき研)
難波 美明 (三菱化学技術部)
河野 哲司 (旭化成ケミカルズ化学技術研)
竹中 安夫 (三菱レイヨン) 矢崎 明 (湧永製薬)
伊藤 雅章 (ダイセル化学工業)
江頭 直義 (県立広島大生命環境)
塩野 毅 (広島大院工) 古賀 信吉 (広島大院教)
青島 均 (山口大院医) 山本 喜久雄 (トクヤマ)
井口 真 (山口東京理科大学) 高橋 満 (東ソー南陽研)
喜多 英敏 (山口大工) 敷田 庄司 (宇部興産宇部研)
今井 昭二 (徳島大総合) 金崎 英治 (徳島大工)
城井 敬史 (大塚化学機能材料研)
武田 清 (鳴門教育大学学校教育) 高木 由美子 (香川大教育)
苑田 晃成 (産業技術総合研究所)
田中 慎 (住友化学基礎化学品研)
斎藤 安彦 (帝人ファイバー技術開発部)
谷 弘幸 (愛媛大総科研支援センター)
御崎 洋二 (愛媛大工) 渡辺 茂 (高知大理)

支部化学教育協議会委員長 今倉 康宏 (鳴門教育大学学校教育)

次年度支部化学教育協議会委員長 上村 明男 (山口大工)

事務局長 藤原 照文 (広島大院理)

会計幹事 早川 慎二郎 (広島大院工)

庶務幹事 高木 謙 (広島大院工) 井上 克也 (広島大院理)

岡田 和正 (広島大院理)

(7) 九州支部

支部長 長村 利彦 (九大院工)

副支部長 小西 良一 (三井化学)

次期支部長 江頭 誠 (長崎大工)

庶務幹事 (会員担当幹事) 瀧上 隆智 (九大院理)

会計幹事 佐田 和己 (九大院工)

教育幹事 藏 源一郎 (福教大)

幹 事 竹内 玄樹 (新日鐵化学) 豊田 昌宏 (大分大工)

岩佐 光芳 (電気化学工業) 石川 誠 (三菱化学)

荒武裕一郎 (住友化学) 鈴木 順行 (三井化学)

佐々木俊樹 (チッソ) 富田 宗利 (日本合成化学工業)

伊吹 一郎 (旭化成ケミカルズ)

西 敏郎 (三菱重工業) 清賀 和法 (小倉合成工業)

中條 哲夫 (昭和電工) 佐藤 武 (味の素)

柘植 顕彦 (九工大工) 原田 雅章 (福教大)

大熊健太郎 (福大理) 馬越 幹男 (久留米高専)

山田 憲二 (北九州高専) 中田 正夫 (産総研)

矢田 光徳 (佐大理工) 小椎尾 謙 (長崎大工)

豊田 昌宏 (大分大工) 伊原 博隆 (熊大工)

藤本 斉 (熊大院自然科学) 後藤 浩一 (崇城大生物生命)

新村 孝善 (鹿児島工技セ)

大島 達也 (宮崎大工) 岩川 哲夫 (鹿大理)

磯部信一郎 (九産大工) 宇地原敏夫 (琉球大理)

監 査 石黒 慎一 (九大院理) 佐藤 栄一 (昭和電工)

10. 平成 18 年度部会事業

(1) コロイドおよび界面化学部会

事 業 名	回数	講演件数	その他	懇親会	参加者数
役員会	3				
顧問会	1				
監査会	0				
財務委員会	0				
ニュースレター編集委員会	2				
企業委員会	2		技術者フォーラム委員会含む		
会員増強委員会	0				
21 世紀 WG	0				
奨励賞選考委員会	1				
Lectureship Award 選考委員会	1				
討論会実行委員会	3				
討論会プログラム編成会	1				
事業企画委員会	4				
ニュースレター発行	4		31 巻 2 号～ 32 巻 1 号		
第 22 回現代コロイド・界面化学基礎講座	1	16	平成 18 年 5 月 17 日 (水) ～ 19 日 (金)		104
第 10 回コロイド・界面技術者フォーラム	1	6	平成 18 年 7 月 20 日 (木) ～ 21 日 (金)		29
第 3 回コロイド・界面新領域創造講座	1	7	平成 18 年 11 月 17 日 (金)		41
第 24 回関西界面科学セミナー	1	7	平成 18 年 7 月 27 日 (木) ～ 28 日 (金)		38
第 59 回コロイドおよび界面化学討論会	1	521	平成 18 年 9 月 13 日 (木) ～ 15 日 (土)	218	674
第 11 回関西コロイド・界面実践講座	1	8	平成 18 年 11 月 7 日 (火)		62
第 24 回コロイド・界面技術シンポジウム	1	12	平成 19 年 1 月 25 日 (木) ～ 26 日 (金)		105

(2) 情報化学部会

事 業 名	回数	講演件数	その他	懇親会	参加者数
総会	1				
役員会	2				
拡大編集委員会	3				
CICSJ Bulletin 発行	5		24 巻 1 号～ 24 巻 5 号		
電子ジャーナル (J.Comp.Aided.Chem) 刊行	随時				
JCAC 論文賞 表彰	1		平成 18 年 11 月 15 日 (水)		
第 29 回情報化学討論会	1	57	特別講演 1 件、一般講演 22 件、 ポスター 34 件	48	129
同 討論会要旨集電子化	1		44 報掲載 (J-stage)		
講習会「第 5 回情報化学入門講座」	1	1			24

(3) 生体機能関連化学部会

事 業 名	回数	講演件数	その他	懇親会	参加者数
役員会	2				
生体機能関連化学・バイオテクノロジー合同シンポジウム	1		平成 18 年 9 月 28 日 (木) ～ 30 日 (土)		
第 20 回生体機能関連化学若手フォーラム	1				
サマースクール	1				
生体機能関連化学部会講習会	0				
ニュースレターの発行	4				

(4) バイオテクノロジー部会

事 業 名	回数	講演件数	その他	懇親会	参加者数
役員会	2				
生体機能関連化学・バイオテクノロジー合同シンポジウム	1		平成 18 年 9 月 28 日 (木) ～ 30 日 (土)		
ニュースレターの発行	2		10 巻 1 号～ 10 巻 2 号		

(5) 有機結晶部会

事 業 名	回数	講演件数	その他	懇親会	参加者数
役員会	2				
総会	1				
第 15 回有機結晶シンポジウム	1	62	招待講演 4 件、口頭発表 25 件、 ポスター 48 件	51	107
ニュースレターの発行	2		18 巻・ 19 巻		

11. 平成 19 年度部会役員

(1) コロイドおよび界面化学部会

部会長	坂本 一民 ((株) 資生堂)	
副部会長	栗原 和枝 (東北大)	内藤 昇 ((株) コーセー)
幹 事	芳賀 正明 (中央大)	中間 康成 ((株) 資生堂)
	岩橋 横夫 (北里大)	岡本 亨 ((株) 資生堂)
	尾関 寿美男 (信州大)	米澤 徹 (東大院)
	森 誠之 (岩手大)	関 隆広 (名古屋大院)
	石川 達雄 (大阪教育大)	宮島 徹 (佐賀大)
	三輪 哲也 ((独) 海洋機構)	松本 睦良 (東理大)
	川島 徳道 (桐蔭横浜大)	長井 勝利 (山形大)
	加納 博文 (千葉大)	小山 昇 (東農大)
	福田 啓一 (花王 (株))	
	上田 隆宣 (日本ベイント (株))	
	白谷 俊史 ((株) 三菱化学)	有賀 克彦 (物材機構)
	酒井 裕二 (ポーラ化成)	田村 隆光 (ライオン (株))
	荒殿 誠 (九大院)	湯浅 真 (東理大)
	岡畑 恵雄 (東工大院)	北川 進 (京大院)
	北本 大 (産総研)	戸嶋 直樹 (山口東理大)
	加藤 直 (首都大東京)	牧野 公子 (東理大)
	松岡秀樹 (京大院)	
監 査	加藤 貞二 (宇都宮大)	阿部 正彦 (東理大)

(2) 情報化学部会

部会長	船津 公人 (東大)	
副部会長	中山 伸一 (筑波大)	高畠 哲彦 (住友化学)
幹 事	堀 憲次 (山口大)	内丸 忠文 (産総研)
	金谷 重彦 (奈良先端大)	河合 隆利 (エーザイ)
	重光 保博 (長崎工業技術セ)	高木 達也 (大阪大)
	後藤 仁志 (豊橋技科大)	中馬 寛 (徳島大)
	富木 毅 (NEC ソフト (株))	藤井 宏行 (三菱化学)
	藤原 巖 (大日本製薬)	相田 美沙子 (広島大)
	広野 修一 (北里大)	池村 淑道 (長浜バイオ大学)
監 査	高田 章 (旭硝子 (株))	細矢 治夫 (お茶の水大)

(3) 生体機能関連化学部会

部会長	岡畑 恵雄 (東工大)	
副部会長	渡辺 芳人 (名古屋大)	杉本 直己 (甲南大)
幹 事	西村 紳一郎 (北大)	依馬 正 (岡山大)

末永 智一 (東北大)	川本 哲治 (武田薬品工業 (株))
浜地 格 (九大)	三原 久和 (東工大)
和田 健彦 (阪大)	青野 重利 (岡崎統合バイオ)
浦野 泰照 (東大院)	片山 佳樹 (九大)
塩谷 光彦 (東大院)	
島本 啓子 (サントリー生物有機科学研)	
杉山 弘 (京大院)	高木 昌宏 (北陸先端科技大院)
民秋 均 (立命館大)	鍋島 達弥 (筑波大)
深瀬 浩一 (阪大)	珠玖 仁 (東北大)

監 査 青山 安宏 (京大院)

(4) バイオテクノロジー部会

部会長	松永 是 (東農大)	
副部会長	浜地 格 (京大)	
幹 事	太田 博道 (慶應大)	下坂 皓洋 (イーピーエス)
	杉本 直己 (甲南大)	高木 昌宏 (北陸先端大)
	民谷 栄一 (北陸先端大)	中村 聡 (東工大)
	西野 徳三 (東北大)	遠藤 弥重太 (愛媛大)
	福住 俊一 (大阪大)	
監 査	渡辺 公綱 (産総研)	大倉 一郎 (東工大)
顧 問	堀越 弘毅 (東洋大)	相澤 益男 (東工大)
	小林 猛 (中部大)	田中 渥夫 (中部大)
	今中 忠行 (京大)	

(5) 有機結晶部会

部会長	佐藤 直樹 (京大)	
副部会長	黒田 玲子 (東大)	宮田 幹二 (大阪大)
幹 事	小島 秀子 (愛媛大)	坂本 昌巳 (千葉大)
	菅原 正 (東大)	田村 類 (京都大)
	山下 敬郎 (東工大)	
監 査	小倉 克之 (千葉大)	中西 八郎 (東北大)
顧 問	井口 洋夫 (宇宙航空研究開発機構)	
	戸田 美三夫	
	大橋 裕二 (高輝度光科学研究セ)	
協力委員	岩崎 不二子 ((株) リガク)	小林 啓二 (城西大)
編集委員会	松本 章一 (大阪市立大)	赤染 元浩 (千葉大)
	植草 秀裕 (東工大)	藤内 謙光 (阪大)
	林 直人 (富山大)	務台 俊樹 (東大)
編集協力者	田中 耕一 (関大)	岡田 修司 (山形大)